

『日本一周12,000km自転車の旅』

山口・九州・沖縄編

前編につづけて

去年の四国一周の経験から、新しく取り入れたいと考えたことは、自転車による日本一周を実行中であるという表示を取り付けようということでした。これを取り付けることによってインパクトがあることは確実だし、各地で有効なコミュニケーションが図れると考えたからです。

自転車のフロントバッグの前面に表示したいと考えました。ユニホームの背面にもとも思いましたが、あまりにも宣伝し過ぎるようで、それはやめることにしました。この表示は、陸上少年団のものと同じ白地のゼッケンを陸上少年団保護者会長の森重恵美子さんが作ってくださり、文字の構成とプリントは由宇町の自転車クラブCCCの朝見義幸さんが完成してくれました。2枚作っていただき、もう1枚はテント泊の時にテントに取り付けて表示しました。



フロントバッグ前面への表示

この表示は、これからの旅の実行中にとっても大きな役割を果たすこととなります。森重さんと朝見さんに大感謝です。

つぎに取り入れたことは、やはり自転車による日本一周を実行中の私であるという名刺を作成したことです。それは、行く先々でお世話になる方々や、出会いふれあう方々への挨拶をきちんとしたいと考えたからです。この名刺の作成についてのアドバイスはゆうスポーツクラブ事務局の平岡功次さんからいただきました。この名刺も、相手を尊敬しこれからお世話になりますという紳士としての表現で、お互いの信頼関係が生ずるとともに、その後の交流にも大変役立ちました。

もうひとつ取り入れたことは、全国の総合型スポーツクラブとの交歓・交流を行うということです。これは、ゆうスポーツクラブ会長の山川敏武さんからの提唱で、親善大使として交歓して来れたらいいねと、全国のいくつかのクラブと連絡を取られて設定して下さったのです。これも、訪問先のそれぞれのクラブで大歓迎をいただいて大変うれしい心温まる交歓ができました。

大きく変更したことは、本年中に四国以外のすべての日本を一周するという予定を改めて、本年は山口県と九州・沖縄とし、来年山口県以外の本州と北海道を巡ると2年間に分けたことです。それは、日程計画を立てていく内に気付いたことで、2年間に分ければゆったりと余裕を持って行ってみたい所へも行けるということでした。その結果、日本最南端の波照間島にも、北海道の利尻島・礼文島にも行って素晴らしい自然の美しさを目にすることができました。

2年目の出発に当たって

日本一周はできるという確信のもとに、これから日本一周に出発しますという宣言を行なうことにしました。そのことで、自分自身に気負わず沈着に、かつ果敢に、楽しみながら有意義な旅を続けようと思えるようになったように思います。山口・九州・沖縄へ40日間の予定で暑さをさけて8月30日に出発することにしました。

2年目 「山口・九州・沖縄」

(平成18年8月30日～10月10日)

第1日 8月30日(水) 小雨時々曇

由宇町[自宅]～防府市秋穂[道の駅あいお](テント泊)

8時、玄関で妻に出発の写真を撮ってもらい出発。8時05分、由宇総合支所へ。まもなく、結城さんご夫妻来られる。それから、山川さん、高本さん、榎本さん、松田君、豊中さん、青山さん、岡村さん、宗正先生、鷹野さん、……。およそ30名の方が見送りに来られる。

全員で記念撮影。本当にありがたいことだ。事故なく、元気に完走することを改めて決意する。CCCのユニホームは、結局間に合わなくて朝見さんのLを借用。だぶつくほどではなかった。

8時20分、定刻に出発。途中「ゆうたん」に寄り、朝見さんにユニホームを返却し「ヒロシゲサイクル」のユニホームに着替える。平岡さん・田中さんに見送っていただく。出発して間もなく雨が降り始める。バッグにレインカバーを取り付けておいてよかった。



出発・由宇総合支所



弘重勝彦さんと

柳井市で、妹幸子の勤める日立建設に寄る。“元気で行って来るよ”出発したとたんバンク。初日からこれでは先が思いやられる。ヒロシゲサイクルの弘重勝彦さんにTELしたところ、休みなのに来てくれる。修理していただき、何とお礼を言ってよいやら。逆に旅の安全を祈ってもらう。心から感謝。

マラソン日本一周の光市・迫口克己さんご夫妻が、柳井市で会議があるからと室積で待っていてくれる。励ましをいただき、うれしい。

バンクというトラブルで大幅に予定が遅れ、光駅で妻の作ってくれたおにぎりや昼食をとる。長丁場、腹ごしらえが一番と思う。

周南市で国道188号線から旧国道2号線に入り、市街地を西に向かう。椿峠はきつかった。10km/h前後で登り切り峠で休憩。ここでトラックの運転手さん(三共運輸)に旅のことを色々尋ねられ励まされる。私が先に出発して峠を下っていると、この運転手さん追い越すときにブザーを鳴らしてくれる。防府の市街地を走る。このあたりから雨もあがり、道の駅「あいお」にテント泊することに決め頑張る。

そんなに疲れていなくて到着。元気をつけるためにトンカツ定食を食べる。ビールは350ml×2本。テント泊をお願いしたところ気持ちよく応諾いただき、雷の予報があるからと軒下に設営させてくれる。この道の駅「あいお」はよく整備されており、車もよく通る。秋穂のおばあちゃんは元気で明るい。そのおばあちゃん

の2人、私の歳を聞いて66歳だと言うと驚いて、20歳代かと思ったと本気で言っていた。本当にそのように見えるのだろうか？

身体を拭き、きれいにする。洗濯は干すところがなく、今日はなし。歯磨きをして、今日の記録をつける。夜、朝見さんよりTELあり。“ユニホーム届いた。大分へ送る。出発の写真奥様に届けた。”とのこと、ありがとう。

夜中、車は大きな音を立てて走るし、エンジンをかけたまま小休止はするし、一晩中やかましくて眠れなかった。



道の駅「あいお」

※ 今日のデータ 出発 8時00分 到着 16時20分
走行距離 104.5 km 走行時間 5時間08分37秒
平均時速 19.8 km/h 最高速度 45.0 km/h
積算距離 104.5 km

第2日 8月31日(木) 雨

防府市秋穂 [道の駅あいお] ~ 下関市 [火の山YH]

6時起床。天気は曇。このまま持ってくれよと願いながら、洗面・身辺整理・出発準備をする。バッグのレインカバーは取り付ける。

7時50分、小雨が降り出したので上雨合羽のみ着て出発する。出発してすぐに大雨になる。これは大変、下雨合羽と靴カバーを取り付けなくてはと思うが、この大海秋穂線には雨宿りする家がなくてパンツも靴もぐちゅぐちゅになる。ようやく家があったので軒下を借りて装着する。雨はなおも降り続く。周防大橋を渡り、元気にランニングする高校生に声をかける。



きららスポーツ交流公園

きららスポーツ館を見学する。こんな広い敷地どのように活用されているのだろうか。ここで少し小降りになり写真撮影。親切なおじさんに見学アドバイスをいただく。

阿知須を過ぎて宇部に入ると大変な大雨になり、車道は海のようになる。タイヤが水溜りに妨げられてなかなか進まない。190号線の右折する所を見落として直進、おかしいのに気付き、作業車運転の青年に聞くと親切に正しい道を教えてくれる。不安に思いながら進んでいる

と、この青年追い抜くときに“もう少しだよ”と声をかけてくれる。

小野田市に入ってもまったく小降りにならない。YAMADA電機があったので、昨夜故障したカンテラを見てもらう。点くようになりほっとする。さらに、雨の中を進む。12時30分を過ぎたので、レストラン「みちしお」に入る。きれいな接客のよい店だ。刺身・貝汁・焼鳥・茶碗蒸し・天ぷら付で1,344円の日替わり定食があったので、これに決



レストラン「みちしお」

める。全ておいしく、ごはんもお替りをする。写真を撮ってもらう。

雨の中走り続ける。火の山YHへの国道9号線を右折してからの登りは急で、一苦労する。YHでは、1部屋4名の相部屋。バイクの大阪大大学院2年生と徒歩の同大4年生ともう一人自転車の学生さんと一緒に、若い人と話すと元気をもらうよう。洗濯器・乾燥器で2日分の洗濯をし、ほっとする。風呂は割合大きな風呂でゆったりと気持ちよい。疲れは全くないし、睡眠不足の感もない。食堂でゆっくりと食事、ビールととらふぐのひれ酒を飲んで大満足。ここで、今日の記録をつける。



火の山YH・同部屋の学生さんと

今日は一日中雨で、バッグにレインカバーを取り付けていたが、バッグの底に水が入り（溜まり）、ノート・本類が濡れて大失敗。自転車は建物の中に入れてくださる。

※ 今日のデータ 出発 7時50分 到着 16時10分
走行距離 76.3 km 走行時間 4時間12分25秒
平均時速 18.1 km/h 最高速度 39.8 km/h
積算距離 180.8 km

第3日 9月1日（金） 晴

下関市〔火の山YH〕～豊後高田市〔市民グランド駐車場〕（テント泊）

6時起床。昨夜はよく眠れる。洗面、布団をたたみ、身辺整理と出発準備。7時40分出発。この時、宿のマスターよりおにぎりをメッセージを書いた紙に包んでいただく。行き届いた心遣いうれしい。



関門橋

関門歩行者トンネルは、入り口からエレベーターで降り、約1,000mの距離を走って九州に入る。大変涼しかった。

和布刈神社を通り、国道3号線を走り、すぐに県道25号線に入り行橋へ向かう。適度なアップダウンとトンネルがあり、やや刺激的。朝見さんからTELあり、門司だということと驚いていた。吉志を過ぎると大体平坦な道で行橋までリラックスして走る。途中、新北九州空港への大橋が見えた。行橋では街を見る

ため市街地を走る。

正午過ぎ、中津に到着。中津城を見て、つづいて福沢諭吉旧邸に行く。ここの茶屋で長天うどんを食べる。ここの天ぷらは、かまぼこのような天ぷらでたくさん入っており、おいしかった。食後、諭吉邸（記念館）を見る。諭吉は、江戸末期に「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という平等思想を唱えた人だと認識していたが、彼は外国に関心を持ち、地球的視野で行動・学習した人だということがあった。



中津城

この後、双葉の里をめざす。大横綱双葉山には子どもの頃から憧れがあった。この記念館は質素だが、地元の人々によってその偉業を称えていることがよく表れていた。

今日は、宇佐にテント泊をしようと思い、宇佐温泉に行く。16時であったが入浴は17時30分からという。近くにキャンプする所はないということで、15km先の豊後高田市尾鷲海水浴場へと向かう。陽はまだ高かったので、思い切って行くことにしたのだ。大体平坦な道で、走りながらキャンプ場を期待して走る。着いてみると、神社と小さい広場があるだけで、全くキャンプできる状況にない。

ここは、夕日が素晴らしいところだそうで、写真撮影にいられていたおじさんに尋ねると、長崎鼻キャンプ場まで頑張ってはどうかと言われ、これは大変だと思ったが6時までには着くだろうと、少々不安だが、行ってみることにする。

約500m進むと「市民グラウンド」と書いた標識があった。これはよい。ここにしようと右折し、坂を登りグラウンドに行くと、大人の野球チームの練習が始まるころであった。監督さんに、この駐車場へのテント泊をお願いすると、携帯で管理課へ連絡を取ってくれてOKの返事をもらう。風もなく穏やかな空気の中、この駐車場にキャンプした。



豊後高田市市民グラウンド駐車場

今日は予定以上に走り、疲れていた。夕食、食欲なし。疲れると食欲は減退するのだろうか。鶏の唐揚げ弁当、半分以上残す。早めに休む。

※ 今日のデータ 出発 7時40分 到着 17時20分
走行距離 101.94 km 走行時間 5時間38分11秒
平均時速 18.0 km/h 積算距離 282.74 km

第4日 9月2日(土) 晴

豊後高田市[市民グラウンド駐車場]～国東町[黒津崎国民休養地](テント泊)
6時起床。朝食は昨夜の弁当の残り。7時30分には、ゲートボールの練習に来る人あり。少し話す。地元のおばあちゃんとも挨拶。

ここからの国東半島はアップダウンの連続。上りでは前ギヤをインナーに落とし、7km/h～10km/hの速度でないと登れない。さらに、前ギヤをインナーに落とす時チェーンが外れ調子が狂う。



姫島を眺めて

国見町を過ぎると、小さなアップダウンが入り江のはずれにあるが、この程度なら楽しい。左手に姫島が細長く2つの低い山でつながっていた。まもなく、国東サイクリングロードに入る。杵築市までつながる立派な自転車道だ。どこかで休んでメガネを拭いた時に、メガネ拭きを落としたようで少々困る。国東町に入りメガネ屋さんがあったので、求めようと寄って事情を話すと、メガネを洗ってくれてメガネ拭きをプレゼントしてくれた。矢

野メガネ店さん、ありがとうございました。

今日は、黒津崎国民休養地にテント泊。12時過ぎには到着。海がきれいだ。浜辺で母子連れの家族に会う。地元の人とのこと。ツーショットしてもらおう。このキャンプ場で洗濯。昼食は道の駅「くにさき」で名物の〇〇汁。ここで命綱のボトルを忘れる。すぐに気付いてあわてて取りに行く。今日は2回も忘れ物をして、改めて気を引き締める。

夕食はうどん屋「磯萬」さんで天ぷらうどん。お風呂は「いこいの村国東」で400円。展望浴場に一人貸切りで、伊予灘のすばらしい景色を眺めながらゆっくりと満喫する。その後、ロビーでゆったりと会計簿と一日の記録をつける。21時テントに帰り就寝する。

※ 今日のデータ 出発 7時40分 到着 12時00分
走行距離 45.70 km 走行時間 2時間52分34秒
平均時速 15.8 km/h 最高速度 53.0 km/h
積算距離 328.44 km



黒津崎国民休養地の海岸

第5日 9月3日(日) 晴

国東町〔黒津崎国民休養地〕～大分市〔前田宏三氏宅〕コンフォートH大分泊
6時起床。洗面。洗濯物がまだ湿っているので、陽の当たる所へ移動してできるだけ乾かす。朝食は牛乳と野菜サンドイッチ。自転車を拭いてきれいにしてチェーンに油をさす。出発準備をしていると、昨晚の「磯萬」の店主さん犬と散歩しておられる。朝の挨拶と昨晚のお礼を言い、写真を撮ってもらい、激励を受ける。



住吉浜・トライアスロン大会中

8時50分出発。今晚着る上着とズボンを荷物に結び乾かしながら出発する。今日のコースは多少のアップダウンはあるが、大体フラット。大分空港を左手に見て快調に走る。ツール・ド・国東の行なわれる住吉浜に寄ってみたところ、丁度、国東トライ

アスロン大会の真っ最中で、応援をされるとともに、私の自転車日本一周中という表示を見て大会関係者や観衆から大歓迎を受ける。杵築市議会議員さん、教育長さんと一緒に写真に収まる。来年のツール・ド・国東に来てくださいと言われ約束する。

杵築市では、親切なおばあちゃんに会い、迷わず杵築城を見学する。また、沿道では女子高生の集団や中学生



杵築城

から“頑張っ”と声をかけられる。“ありがとう”と返事を返す。国道213号線ではトライアスロン終盤のランの選手を応援する。

別府市に入り、13時、別府港の側の物産センターで昼食にする。あじのひらき定食は郷土料理でおいしく食べ応えがあった。ここでボトルに水をいただく。その後、竹細工展などセンター内を見学し14時30分まで休憩する。

高崎山入口から大分西までは薄緑色にきれいに舗装された歩道がつづいていた。

大分城門前に15時35分に到着。学生時代の友人前田宏三さんが迎えに来てくれていた。一緒に写真撮影し、城を巡りながら約5分彼のマンションに着く。奥様に迎えられる。



別府市・物産センター

すぐに入浴。すっかり癒されて、さっぱりする。うまいビールをいただきながら久々の歓談。本当にいいものだ。洗濯をと言うと、奥様がしておくからと言われ、あつかましくもお願いします。妻より荷物が届いており、うれしい。明日は、新しいC.C.Cのユニホームを着るぞ。



前田宏三さんと

17時30分、マンションを出て宏三さんと2人でコンフォートホテルへ行く。

部屋は立派なツインの洋室。豪華な夕食。記念写真を撮ってもらう。生ビールで乾杯。それぞれのこれまでのこと、家族のこと、趣味など今のこと、これからのこと、色々とお話した。土瓶蒸しがおいしかった。最後はお寿

司。もみじまんじゅうのお土産では申し訳ない気がする。22時00分就寝。

※ 今日のデータ 出発 8時50分 到着 15時35分

走行距離 64.02 km 走行時間 3時間42分15秒

平均時速 17.2 km/h 最高速度 42.4 km/h

積算距離 392.46 km

第6日 9月4日(月) 曇のち晴

大分市[前田宏三氏宅]コンフォートH大分～佐伯市[道の駅やよい岬]

6時起床。天気予報を見る。台風12号は関東の方へ進むようでよかった。週間予報では10日までは大体よいようだ。今日の予報は曇りで、実際もその通りで鶴見岳、由布岳が見えなくて少々残念。でも走るのには曇りの方がよい。降雨確率30%ということで、念のためにバッグのレインカバーを直ぐ出せる所にしまう。朝食はバイキング。洋食をいただく。奥様わざわざ洗濯物を届けてくださり、



大分川

誠にありがたく厚くお礼を言って受け取る。

出発後、大分川をバックに前田さんに自転車に乗った姿を撮ってもらう。大分川沿いにある別大マラソン会場の大分市陸上競技場を右手に見て、街路樹の立派な県道22号線を走る。まもなく、有料道路大野川を渡り、国道197号線に入る。この国道は別府湾沿岸沿いのフラットなコースで佐賀関まで気持ちよく走る。関崎までは行かず臼杵をめざす。



臼杵・石仏

臼杵市では、バイパスでなく臼杵市街地方面の道に進む。中心地に来て、道がわからなくなり、数名の男子高校生（海洋高校）に臼杵石仏に行きたいと聞くと、気持ちよく自分たちもその方向へ行くのでついて来て下さいと言う。任せてついて行くと、小さい路地を通り10分位走って国道10号線沿いのスーパーに来る。“ここから真直ぐ行ったらいい”と教えられ、大感謝。

石仏は圧巻だった。よくもまあ、自然の岩にあれだけの仏様が彫れたものだと感心するとともに、日本仏教は大したものだと

思った。現代に結びつく何かがあるはずだ。このレストラン「うさぎ茶屋」で昼食にする。メニューは和風チャンポン。ビールは我慢。

ここから津久見市へ抜ける新臼津トンネルまでの約2kmの上りは半端じゃなく大変厳しい。途中で降りて歩こうかと何度も思ったが、“楽にこいでいる” “楽にこいでいる”と自分に言い聞かせて登り切る。トンネル入口で、しばし水分を取りながら休憩、苦しんだ思い出にトンネルの写真を撮る。



新臼津トンネル

津久見市の港で漁師のやや年配のご夫婦と話す。大体、網による漁だそう。今は、よく獲れて値段が安くて困るというお話。大漁で困るというのは本当に困ったものだと思う。元気で陽気なお二人であった。

ここからまた、180°のヘアピンカーブのある千怒岬。もう頂上かと思えども、延々と上りがつづき、大変きつかった。登り切って休憩、工事中のおじさんと話す。“まだ、上りはあるよ”という話。やれやれという思いで再出発したが、すぐに峠になり、下り坂を気持ちよく下って行った。その後は、トンネルが3つばかりあったが、大体平坦でほっとした。

しかし、佐伯市に入り海岸沿いの道で向い風が強く難儀をする。入り江に入る時はやや追い風になるが、入り江を出て岬に向かう時は強い向い風になるのだ。この道で乗用車の40歳代のおじさんが、後ろから追い抜いて止まり、車から降りてきて“これをどうぞ”と何か円筒のようなものを差し出す。何かと思うと栄養補給のドリンク「リゲイン24」だ。“自分も若い頃、自転車の旅やっていた” “頑張ってください”と言って手渡してくれる。思わず心に熱いものが流れ、“ありがとうございます”と言って受け取る。このおじさん、“気をつけてね”と言ってすぐに乗車して発車して行く。車のナンバーの県名でも見ておこうと思ったら、くるりと向きを変えて追いかけて来た方向へUターンして走り去って行った。おそらく、私と

すれ違った時、私の自転車の表示を見てUターンして追っかけて来てくれたものと、改めて感謝をする。このドリンクその場で飲ませてもらって力をいただいた。

それにしても、道の駅「やよい」は遠かった。87kmの予定が100km強であった。地図を見ながら、まだかまだかと思いつつながら懸命にこぎつづけた。

この道の駅には「やよいの湯」があり、食事もできる。ビールはなかったので約2km先のスーパーに買出しに行く。ビールとさしみと豆腐としょうゆ(小瓶)を買う。ゆっくりと晩酌をして、やよいの湯に入り、体をさっぱりしてから夕食をとる。ここで、自転車旅行中の大学生に出会う。なんと殆んどテント泊、一日平均140km進むという。脱帽だ。とても気持ちのよい学生で、礼儀正しい人だった。また、どこかで出会うことを約束する。



道の駅「やよい」

※ 今日のデータ 出発 7時50分 到着 16時05分
走行距離 101.69km 走行時間 5時間57分54秒
平均時速 17.0km/h 最高速度 49.6km/h
積算距離 494.15km

第7日 9月5日(火) 曇のち雨のち曇のち雨

佐伯市[道の駅やよい岬]～日向市[道の駅日向]

6時起床。洗面。身辺整理。片付け。昨日の学生は6時30分には出発する。今日は宮崎まで行くとのこと。道の駅から商品を仕入れているおばさんからバナナを一房いただく。道の駅で湧き出ている地下水がある。ボトルを洗っていっぱいに入れる。

7時30分出発。番匠大橋を渡って2～3km行くと徐々に上り坂になる。「なおみ」まで2つの上りがあった。ここで歩いては何にもならないとギヤを下げて頑張る。さらに、「直川」までも2～3個のかなりきつい上りがある。「直川」の物産店で小休憩。ここの店員さんに宗太郎越えのことを聞くと、“それはきつい。県道39号線から国道326号線に出るのが、遠回りだがそれを勧める”と言われ



道の駅「はゆま」

る。そのつもりで再出発。しばらくは田園風景の殆んど平坦なだらだら道。適当な負荷を感じながら進む。そのうちに、言われた通りの急坂の長い道がつづく。もう汗だくだくで、特に眼鏡の下が汗に濡れて困る。絶対に降りないぞ、楽なんだ、楽なんだ、と言い聞かせて「大原」の峠にようやく到着する。

ここで休憩。そばにあった民家に寄って、この後の宗太郎越えのきつきについて尋ねると、“これから先の国道10号線は、ずっと下りで楽ですよ。宗太郎も今は全く下り坂です

よ”と言われ、聞いてよかったと思う。無駄に遠回りをするところであった。

それからはもう、気持ちよく山の中の道を快調に下って行く。映画「なごり雪」のロケ現場に寄ってみたが、重岡駅があるだけで何のことはなかった。

再び下って行くと、ぼつぼつ雨が降り始める。適当な場所を探しながら下っていくと、工事現場の事務所があった。軒下を貸していただくようお願いしたところ“どうぞ中に入って”と親切に伝えてくださる。軒下に自転車を止めて、事務所に入って合羽を着て、荷物にレインカバーを取り付ける。すぐに再出発し、雨の中宗太郎トンネルを抜けて長くつづく下り坂を下っていった。

道の駅「はゆま」で休憩。やはり昼食はうどんがいい。隣の席にトラックの運転手3人がおられ、色々話をしたり聞いたりする内に、今夕の泊は、伊勢が浜より道の駅「日向」の方がよいことがわかった。ありがとう。

ここを出る頃には、殆んど雨も上がりよかったと思う。延岡で旭化成の陸上競技場を見学した。まだ時間（1時30分）が早かったので、選手も監督も姿は見えなかった。



旭化成・陸上競技場



日向灘の豪快な波

日向市を過ぎた辺りで、日向灘の大きな波が海岸に打ち寄せて白いしぶきをあげ、すごく豪快な風景を目にする。大きな波の壁が浜に打ち寄せるといふ風景だ。写真撮影。

道の駅「日向」に着く。店長さんも店員さんもとても親切で、軒下にテント設営すること気持ちよくOKして下さる。早速、あずまやでコンビニで買って来た豆腐と鶏軟骨唐揚げをつまみにビールで疲れを癒す。愛知から来たというバイク旅行の社会人の青年と話す。その後、「お舟出の湯」まで入浴に行く。店

長さん、雨が降り出していたので傘を貸して下さる。お風呂にゆったりとつかり、夕食をとる。大広間でゆっくりとくつろぎ、一日の記録もつける。21時過ぎテントに帰り、就寝する。

※ 今日のデータ 出発 7時35分 到着 16時15分
走行距離 90.9 km 走行時間 5時間00分04秒
平均時速 18.1 km/h 積算距離 585.05 km

第8日 9月6日（水）曇

日向市 [道の駅日向] ～宮崎市 [宮崎婦人会館YH]

出発前、年配のご夫婦に温かい言葉をかけられる。宮崎の人はみなさん親切だ。

7～8人の旅行中のおばさんグループにも日本一周のことを色々聞かれ、写真撮影にも応じるが、ホームページに載せてよいかと言われる。いいですよと応える。よほど貴重な記事になるのだろうか。先程の年配のご夫婦とバイクの青年と一緒に写真に収まる。小



道の駅「日向」

雨が降り出したので、バッグ類にレインカバーをかける。合羽は本格的に降り出してからでよいと、フロントバッグに入れて出発する。



リニアモーターカーと促成栽培

都濃では、県道366号線に入りリニアモーターカーの線路沿いを走る。今は、試験運転はやっていないとのこと。促成栽培のビニールハウスがたくさんあった。畑の土は総じて真っ黒に近い。海岸近くでは、大きな波が浜に打ち寄せる音が恐いようだ。高鍋市を過ぎ、同じような直線のほぼ平坦な道を走る。日向大橋をわたり、県道372号線に入る。砂

土原町も農業の町のような。道路脇に市場があった。

宮崎市に入り、フェニックス自然動物園に行ったが、水曜日で休館だった。入り口で中をのぞき少し雰囲気だけ感じた。ここからシーガイアの公園の中を走る。松並木と亜熱帯植物に囲まれた美しい道路だ。聳え立つオーシャンドームと高層ビルには、引きつけられるものがある。



シーガイア公園

宮崎神宮に着くと、社務所前に親王様ご誕生祝記帳と書いた看板と台・記載帳があった。社務所で聞いてみると、今朝、紀子様男子が誕生されたとのこと。早速、お祝いの記帳をする。本殿にお参りし、朱印帳に記帳してもらう。

この後、正午を大分過ぎていたので、とにかく昼食をと思い中心街で適当な店を探すがなかなか決まらない。ようやく、よさそうな「弁天」という魚・すしの割烹屋さんがあったので入る。思い通りのよい店で、刺身定食とビールで昼食。



オーシャンドーム

15時、今日の宿の「宮崎婦人会館YH」に着く。昨夜、TEL. 予約済みだ。

少し早いですが、風呂に入りたいと言うと、すぐ沸かすからと言って10分もしない内に沸いた。その間に洗濯機を動かしておいた。文字通り一番風呂に入る。16時頃から控室で、コーヒーを飲みながら一日の記録をつけ、明日の予定を検討する。

その後、徒歩で「みやざき物産店」に行き妻の土産にマンゴーカレー

と郷土名物冷汁を買う。これまでにできた余分な荷物と同封して送る。郵便局の方もとても親切に一番安く有効に送る方法を教えてくれた。

夕食は、YHに併設しているレストランで定食（刺身・天ぷら・サラダ・吸物等）1,000円。このレストランのご主人の話では、明日は目井津という所にある海の駅で色々



宮崎神宮・悠の宮様ご誕生

まいものが食べられる、特に伊勢えび料理がよいとのこと。ボトルを洗浄していただく。

また、YHのマスターの話では、国道448号線都井岬の手前が通行止めとのこと。コースの予定を変更して、南郷町から国道220号線に入って、串間市へ行かなければならないかも知れない。

※ 今日のデータ 出発 7時50分 到着 15時00分
走行距離 66.22 km 走行時間 3時間55分33秒
平均時速 16.8 km/h 最高速度 49.7 km/h
積算距離 651.27 km

第9日 9月7日(木) 曇のち晴

宮崎市[宮崎婦人会館YH]～鹿児島県志布志町[道の駅くくの松原おおさき]

昨夜はよく眠れた。6時起床。すばやく洗面、整理、出発準備。ボトルがきれいになったのでうれしい。紀子様出産の新聞を読む。朝食は、おばさんにいただいたバナナ2本とYH設置のコーヒーをいただく。

7時50分出発。橘公園・大淀川河畔はいつも見ても美しい。まもなく、巨人軍の宮崎球場の側を走る。青島手前では巨人軍の宿舎もあった。子どもの国を外から撮影。青島では、自転車まで渡る。ビロウ樹が虫にやられるのでそれを調査する人に出会い、話を聞く。観光資源の管理ご苦労さまです。波状岩「鬼の洗濯板」を歩く。



青島



堀切峠

堀切峠の上りは大分汗をかかされるが、登ると景色は抜群によい。ここから、多少のアップダウンはあるが、大体平坦で快走する。波は太平洋としては穏やかな方だ。所々、絶景を撮影しながら南下する。やや追い風もあり気持ちよい。サボテン公園に寄ろう思ったが、今は休園中という。岬を回らずにトンネルを直進する。途中、サーフィンを楽しんでいるグループを見る。波に乗ってすべるのを見ていると

楽しそう。でも、間もなく波に飲まれてしまう。鶴戸神宮も何度も行っているのでパスする。

目井津の海の駅で昼食・休憩。ここの魚料理は現地水揚げの新鮮な魚でうまい上に安い。遠くからでも食べにやってくるそう。同席の年輩のご夫婦と話す。小林市から食べに来たという。まぐろ井定食を食べる。うまい。

ここの駐在所で、国道448号線の道路状況を尋ねると、やはり通行止めということで、やむなく国道220号線を通って串間市に行くことにする。結果的には、このコースの方が楽だったと思われる。緩やかな山間部を



ブーゲンビレア



はまゆう

約20km進むと串間市に至る。串間神社で本日キャンプの予定の「串間いこいの里温泉」にTEL.すると、大浴場は改修中で入れないという。それなら、思い切って道の駅「くにの松原おおさき」まで行こうと決断し、本日の走行距離110kmになるが17時には着くだろうと懸命にこいで走る。海沿いのフェニックスロードは美しく爽快。志布志を過ぎた所にスーパーがあったので、刺身とサラダとビールを購入し、しばらく走ると道の駅「くにの松原おおさき」に着く。



ハイビスカス



大崎にて・地元の方々と

店長さんに名刺を渡して、テントの設営をお願いすると、裏の公園にどうぞと言われる。休憩所で刺身とサラダとビールでくつろいでいると、地元の人数名が宴会にやってくる。一緒に飲みながら話す。それぞれ違う商売をしていて、仕事がすんだ夕方に時々集まるという。いいものだ。一緒に写真撮影。

その後、テントを設営し、併設する温泉「あすばる大崎」に入浴。大浴場、露天風呂、他いろいろの湯に入る。その後、レストランで夕食。この施設で一日の記録をつけたりゆっくりする。明日は、根占の錦江湾サウスロードYHまで行くことにして、

予約する。21時30分テントに帰り就寝する。

※ 今日のデータ	出発	7時10分	到着	17時00分
	走行距離	110.56 km	走行時間	5時間49分18秒
	平均時速	18.9 km/h	積算距離	761.83 km

第10日 9月8日(金) 曇のち晴

志布志町 [道の駅くにの松原おおさき] ~ 根占 [錦江湾サウスロードYH]

今日のコースは難コース。朝早く、とりあえず、いただいた残りのバナナ1本を食べて出発。平坦な大隅路を快走する。朝食を摂ろうと思うが、コンビニも店もない。東串良町で聞くと内之浦町までないという。内之浦町まではおよそ20kmはあるが、仕方なく続けて走る。まもなく、海岸線の上りが続く。頑張ってこぐ。標高100mは登っていると思われる。途中、小さな商店があって、寄ってみると缶コーヒーとパンがあり、朝食にする。ここには、バス停がありこれからバスに乗って出かけるという農家のおばあさん方と話しながらいただく。辺りな所だが住めば都だと言っておられる。



道の駅「くにの松原おおさき」

ロケットの見える丘から内之浦の宇宙空間観測所を眺める。内の浦町へ下って行

って「コスモピア」で小休憩。



内之浦「宇宙空間観測所」

いよいよ、標高300mを越えるロケット発射台のある宇宙空間観測所へ向けて登り始める。すごい上りが4kmずーと続いている。1.5km登った所でリタイヤ、残り2.5kmは押して登る。汗が吹き出たまらない。ようやくの思いで宇宙空間観測所入り口(美濃峠)に着く。守衛さんがとても親切で、荷物を預かりましょうと言われ、自転車の荷物を降ろすのを手伝ってくれる。軽くなった自転車で、ロケット発射台や展望台に登って

行った。大きいから小さいのまで色々なロケットがあった。今月末に発射されるそうだ。資料館に入り、ロケットの歴史や最新宇宙技術を見学した。

守衛さんにお礼を言って、岸良町まで下る。ラーメン屋さんに入り、ラーメンとチャーハンとビールを注文する。この店のご主人は釣りの名人で魚拓をたくさん飾っておられ、釣りの話を聞きながら楽しく昼食をする。

ここから大根占への448号線は死ぬ思いだった。上りが急で、しかも長い。はじめは少し下りもあったが、途中から下りはなく延々と上りが続く。ここでも遂に歩いてしまう。五郎ヶ元という峠だった。海拔400mはあったと思われる。峠の1.2km手前に清水があり、車で通る何人かの人々が汲んでいた。その方々と話しながら飲んだ水は最高にうまかった。



小惑星探査機「はやぶさ」



釣り名人の「ラーメン屋さん」

五郎ヶ元峠を越えて下りに入り、ギヤをインナーからミドル・アウターに切り替えると、カタカタ音がする。これは一大事と、何回かやってみるが同じことだ。仕方ないからインナーのままに惰性にまかせて下る。惰性にまかせて走っているから、当然スピードは出ない。上りで2度も長時間歩いた上に、下りでもスピードが出ず、時間はどんどん経過する。疲れていて、新田峠(標高330m)の手前で今日3度目の歩き、この時、五郎ヶ元峠で話した人が、車から“もう少しでトンネルよ。トンネル出ると下りだから

ね。”と声をかけてくれる。

すぐに、新田峠を越えて、下って行く。田代という所で自転車店を探して見てもらうが、改善方法わからない。大根占の原が瀬自転車店を紹介される。約8km走り行って見てもらったが、ここではかえっておかしくなって、ギヤのチェンジも効

かなくなった。仕方なくミドルで音がでないようにしてもらって、鹿児島市の専門店を紹介してもらおう。やはり、専門のサイクルショップでないといけない。錦江湾サウスロードYHに着いた時にはくたくただった。

風呂に入り、食事をして、少し回復した。洗濯をする。妻、弘重さん、鹿児島出身の東川智子先生にTELする。彼女びっくりしていた。明日は、佐多岬は止めて、錦江湾を北上、桜島を通して鹿児島市の自転車店（トミウラ商事）へ行くことにする。明日の宿「桜島YH」に予約する。

※ 今日のデータ 出発 7時20分 到着 18時10分
走行距離 85.47km 走行時間 5時間44分40秒
平均時速 14.8km/h 最高速度 60.0km/h
積算距離 847.3km

第11日 9月9日（土）曇

根占 [錦江湾サウスロードYH] ~ 桜島 [桜島YH]

6時30分起床。朝食をとり、早速新聞を見る。天気予報だ。秋雨前線が列島を縦断しており、鹿児島地方も、<雨ところにより大雨>と出ている。今は降っていないが、すぐにも降りそう。荷物にレインカバーをかけて出発する。

雨の心配とともに、前ギヤがミドルに固定したままなので、急坂に対する心配が常につきまとった。しかし、岬になると上り坂も数多くあったが、後ギヤを落とすことで何とか登れたのでよかった。それにしても、いくつあったか数え切れないほどあったアップダウンには、大変疲れた。もういやになる。その時には、膝がだるくて、心臓がドクンドクンして、息がハーハーいって苦しいが、平坦や下りを走っている内に回復するので、大丈夫なのだろう。幸いなことに、雨は鹿児島港に着くまでは全く降られなくて本当によかった。



錦江湾サウスロードYH



菅原神社

ライダーハウス「たるみず」に寄る。水を一杯よばれて、鹿児島市の自転車店をめぐり、再出発する。桜島がだんだん大きくなっていく。頂上には雲がかかっている、残念ながら山頂は見えない。

溶岩道路に入る。この頃は丁度日中で日照りが強く、アップダウンも連続で、汗がダラダラ出る。水分は十分に摂りながら走るの、



桜島

それが全部汗になって出る。手拭も手袋もヘアバンドも汗びっしょりで、絞ると汗がタラタラとしずくとなって落ちるという具合だ。桜島の威容、よく見えてきた。

桜島ドライブインで昼食にする。ビールに、元気をつけようと「うな重」を食べる。これがとても旨かった。

火砕流が流れてくるのか、それを流す川やそれを止める堰堤がいくつもあった。



桜島フェリーから鹿児島市を望む

また、退避壕・場所もいくつもあった。

桜島フェリーで鹿児島島に渡る。フェリーから見る対岸の鹿児島市は左右に長く中都市という感じだ。城山はどこかなと思って見渡したがわからなかった。空には黒い雲が垂れ込めていて異様な感じだった。鹿児島港に着いて、街に出ようとしたとたんに、黒雲がやってきて大雨となった。雨が止むまで港で待つことにした。やはり、通り雨であったようで15分ほどで止んだ。若い女の子に“頑

張って”と声をかけられる。港の係員に国道10号線への道を教えてもらい、「トミハラ商事」へは迷わず行けた。

ギヤの修理は10分ほどで完治した。やはり専門家だ。ワイヤーの伸びが原因だったのだ。これは初歩的なミス。自分で簡単に調整できたのに。帰りに照国神社にお参りした。島津斉彬公が祭ってある。すごい偉人だ。この人のことを学んでみたい。

桜島フェリーで桜島へ戻り「桜島YH」に着く。ギヤも直ったので急な坂道もへっちゃらだった。

今日は、アップダウンが多かったので、疲れたという感じだった。すぐに、入浴、体を癒して、夕食にする。風呂は大浴場で桜島特有の茶色に濁った湯で塩辛かった。色々な効能があると書いてあった。夕食時、静岡から来たという柔道家で、ガンと闘っておられる落合さんに出会う。出水市にいい先生がいるというので、明後日見てもらうという。抗がん剤の関係で、手足や顔がむくんでいるが、とても元気。ガンに打ち克つという強い意志を持ち、すごいバイタリティーだ。回復を祈る。洗濯をする。



照国神社



落合伸美さん

※ 今日のデータ 出発 7時40分 到着 14時00分 (17時20分)
走行距離 73.47 km 走行時間 4時間21分51秒
平均時速 16.8 km/h 最高速度 52.1 km/h
積算距離 920.77 km

第12日 9月10日(日) 曇時々雨

桜島 [桜島YH] ~ 始良町「始良スポーツクラブ」~ 鹿児島港 (フェリー) ~
[フェリー船中泊]

夜中に激しく雷が鳴った。頭の真上で幾度となく、激しい雷鳴だった。朝起きる

と雨が降っている。今日は始良町へ行くだけだから、YHで雨が上がるまでゆっくりしようかと思っていたが、その内に雨が上がったので出発することに決める。



桜島YH

食堂で、落合さんと再度話しをし嘉納治五郎さんの教えの文書をいただく。この食堂には「石原軍団のサイン」が掲示してあった。

8時35分出発。フェリーはひっきりなしにあるので、港の行くとすぐに乗船、出港となる。鹿児島港から国道10号線を走り始良町へ向かう。右手に桜島を眺めて快走する。鹿児島湾は養殖イカダもたくさんあり、何が獲れるのかなと思う。始良町に入る所で少し道に迷って10時の予定が10時20分になってしまった。

始良スポーツクラブは、始良町総合運動公園の中の体育センターにあり約800m坂道を登る高台にあった。北野施設長さんと職員3名に迎えられる。北野さんから色々お話をうかがい、特に指定管理を受けるためには、行政のトップの方々の理解が大切だということが勉強になった。施設や活動風景を見せてもらい、およそ1時間で退出する。帰路は多少雨がパラパラしたがまもなく上がり、仙巖園からは海岸線を通り気持ちよく鹿児島に戻り。鹿児島港のそばにあった焼き鳥「とりいち」で昼食にする。日替わり定食(白魚のフライとミンチカツ他)。ここで山形屋近くの〈うずら通り〉を覚えてもらう。



始良スポーツクラブの皆さんと

うずら通りにあるカメラ店「イケダ屋」でデジカメカードの写真をCDに書き込んでもらう。店員さんは自転車日本一周と聞いてしきりに感心していた。つづいて向かいにあった美容院で散髪をする。



名門・鶴丸高校

少し時間があるので、近くにある東川智子先生の母校鶴丸高校へ行ってみることにする。校門の校名の表示には伝統を感ずる。校門を入った右手に県立第一鹿児島中跡と書いた石碑があった。奥の校庭では生徒たちがテニスとサッカーの部活動を熱心に行っていた。

16時10分、鹿児島新港に到着。輪行のため車輪をはずし、袋に入れている若者がいた。係員の方が私の場合は荷物が大きいので荷物料が必要になるし、自分のスペースには置く所がない。手間も省けるし、そのまま乗船するのが

よい。と言われる。それはそうだと輪行はやめる。売店でビールとかまぼこ・牛乳を購入し乗船する。二等99番。その場所に行くと、隣の100番に先程の若者がいた。話をすると、彼は城西大の4年生で、東京から8月22日に出発、国道1・2号線を下り、九州は国道3号線を南下、これから那覇に2日間いて、9月15日

から大学が始まるのでそれまでに飛行機で東京に帰るとのこと。

はじめにシャワー入浴、その後レストランで夕食。気がつくとも外は暗くなっていた。屋久島の灯台が見える。この屋久島の上空では、雷光しきりである。船は多少ゆれるが大したことはない。11時30分就寝。よく眠れる。

※ 今日のデータ 出発 8時35分 到着 16時00分 (出港18時)

走行距離 50.16 km 走行時間 2時間52分29秒

平均時速 17.4 km/h 積算距離 970.93 km

第13日 9月11日(月) 晴

鹿児島港(フェリー)～那覇(フェリー)～

[フェリー船中] 泊

早朝4時過ぎ奄美大島名瀬港着の放送あり。外は真っ暗で何も見えない。すぐに、また眠る。

6時過ぎ起床。外に出てみると大きな島が左手に見える。朝食を食べながら、この大島を見る。奄美大島だ。大きく長い島がつづいている。9時近くになると右手に徳之島が見えてくる。明るく太陽の陽が当たり、低い島だが美しく輝いて見える。この島の出身の徳誠一先生にTELする。びっくりしていた。徳之島は、港に着いてみると割合人口も有りそうな感じ。つぎに同じく右手に沖永良部島が見えてくる。高さ、広さとも徳之島に似た感じ。海の色は紺碧だ。



徳之島

鹿児島港で乗船する時に、メーター感知器のワイヤー1本が切れていることに気付く。弘重サイクルの勝彦さんに電話で対処を相談する。と、この電話の話を聞いていた中年の男性の方が、ワイヤーは自分が持っている。沖永良部島に着いたら取ってきてあげると言われる。まもなく、たくさん持ってきてくれる。“これだろうか?” “はい、そうです。” “あげるから、やってみなさい。” とのこと。感謝



徳之島港

のことばを言っていた。 “どちらの方ですか?” と聞くが、 “いいよ” と言われたが、胸のユニホームに<鹿児島警備保障>とあった。与論島に着いた時、係員にベンチを借りて修理する。これで安心。本当にありがとうございました。

隣の100番席の学生さんは山上貴之君という。就職しても元気に自転車を続けていきたいですね。と話す。今後の行き先や、装備のことなどいろいろ話す。

予定通り、18時40分那覇港に到着する。

直ぐに、海岸道路をライトを灯して走り那覇新港へ向かう。約5 km、15分位で到着。手続きを済ませ、窓口で聞いたスーパーで夜食を購入し、乗船する。同室には若い旅行者ばかり8人だ。みんな明るい。すぐにシャワー入浴。隣の枠で髪を後で結んだ中年の男性と挨拶、会話が進む。



与論島

さっぱりして休憩室でくつろいでいると、當さんという沖縄の牧師さんから声をかけられる。私の自転車日本一周に興味を持たれたようで色々聞かれ、私も彼のことを尋ねる。彼は沖縄で自然自家農園を持ち、半自給自足で布教活動を行なっておられる人だ。今回は、もう一人の仲嶺さんと一緒に、会の子ども2人とともに石垣島の川平に色々な体験活動に行くとのこと。仲嶺さんも紹介していただく。名護市に来たら、ぜひ寄ってくださいとのこと、ありがたい。

レストランで夕食。部屋に戻った後、甲板に出てみると同室の人（男2人、女1人）と先程風呂で話した人が円くなってギターを弾きながら歌って、飲食している。とても楽しそうなので私も間に入り、かまぼこを差し出して、焼酎を飲み、一緒に歌を聞き、またいろいろ話す。ギターの男性はヒッチハイク、女性は小型バイクの旅、頭を結んだ男性はしばらくの間沖縄でキャンプ、……。私のこともいろいろ聞かれる。その内に雨が降り出したので部屋に戻り横になる。左隣は、甲板で交歓した小型バイクの女性、右隣はギターを弾くヒッチハイクの若者。足を向かい合わせた向かい側の男女夫婦も、私のことを色々聞かれ、旅の話をし合った。

私の乗った船は琉球海運の船「わかなつおきなわ」で、今日が最後の航海だと沖縄の乗客から聞いた。最後の航海に乗船できたことは記念すべきことだと、うれしく思う。乗船券をずっと取っておこう。

船は、ゆっくりやや大きくゆれているが、丁度ゆりかごのようでよく眠れた。

※ 今日のデータ	出発	前日	18時00分	鹿児島港出港
	到着	本日	18時40分	那覇港到着
	出発	本日	20時00分	那覇港出港

第14日 9月12日（火） 晴時々曇

那覇港（フェリー）～石垣港（フェリー）⇄波照間島 石垣市 [YHハ州旅館]

6時起床。甲板に出てみると、左側に大きな島が見える。ベンチに座って島を眺めている中年の太型の男性の横に座る。あの島はどこでしょうかと尋ねると、今、石垣島の北側を進んでいる。左に見える岬が平久保岬だと教えてくれた。これで船と島の位置関係がわかった。その人にどういう旅をしておられるのか尋ねると、手打ちうどんづくりの店を石垣島に出すために行くのだと言われる。本職はダイバーで約半年仕事をして、後半年はやりたいことをやるという。石垣島にも度々来ているし、全国あちこち行っているとのこと。石垣島にはうどん屋が一軒しかないし、水もよくないのでおいしくない。今回、福岡で手打ちうどんの修業を終了し、軟水もきれいにする機械を購入して、おいしい手打ちうどんの店を開業するそう。スカイダイビングもする。今日の前に見えている石垣島



「わかなつおきなわ」デッキにて 當・池田さんと

の山でもやっているという。すごい人がいるものだと思う。私のことも聞かれ、意気投合。

そうしていると、昨夜の牧師・當さんから声がかかり、沖縄放送局のアナウンサー池田さんを紹介してくれる。この人は、アナウンサーでもあり、トライアスロンもするとのこと。これまた、すごい。沖縄放送NHKの夕方18時10分のニュースに出ているという。

予定より少し早く、8時40分石垣港に到着。すぐに波照間島行の切符売場・棧橋を目ざす。一番遠い所が波照間島の棧橋だった。8時55分平田観光の切符売場に行くと、棧橋に電話してくれた。船は待っているから、すぐに行くようにと言われほっとする。船は、デッキを上げていたが、私のために下ろしてくれて自転車を乗せてくれた。



波照間小学校

時は海底に珊瑚礁がいくつも見える。デッキに若い女性の方が一人海を眺めている。どちらからですか？と声をかけて、色々話して見ると、仙台の方で八重山地方の観光に来たとのこと。仕事をしてお金をためて、色々な所に旅するのが楽しいのだという。ざっくばらんな人。この人も素晴らしいと思う。私のことも聞かれ、すごい人と言われる。しばらくして、この人は船酔いをして甲板に横になった。何とかしたいが、何もできない。船がゆれないことと、早く着くことを祈るばかりだ。

予定より25分遅れて到着した。下船して、船待合所で案内パンフレットはないか聞いてみたが、ないという。本当に辺りな島の待合所という感じで、小さな売店があるだけだ。町の中心の小学校とその近くにある何でも屋さんを教えてくれた。坂を登り、島の中心部へ向かう。派出所があったので、案内書はないか聞くが、ここでもないという。と、同時に入った来られた人から、“地図あげるよ。少し痛んでいるけど”と言われて、ありがたいたくいただく。どこでも親切な人が多い。

日本最南端の学校「波照間小学校」を訪問する。職員の方に名刺を差し出して名乗ると、山口県宇部市から嫁いで来られたという先生が出て来られて、親しく交歓する。何でも屋さんで、沖縄そばを食

この船は「わかなつおきなわ」よりは、大分小さくて、レストランやシャワー室はなかった。揺れ方も、テンポがやや速く、大きく揺れるように感じた。竹富島が右手に見える。平たい島だ。それよりももっと平たく細長い島が進行方向に見える。黒島だ。波照間島は、地図で調べると竹富島までの約10倍位の距離にある。

デッキに出て見る景色は広くて、美しい。特に、海の色、浅い所はエメラルドグリーンというのだろうか、その上を走っている



さとうきび畑を走る

べる。

オヤケアカハチの生誕地の側を通り、日本最南端の地へ向かう。さとうきび畑の中を走っていると、雨が降り出した。これは大変、雨宿りする所がないのでスピードを上げて走るが、雨脚は強くなるばかりで、とうとう土砂降りになってくる。やがて、右手に農作業用のやや大きめの小屋が見つかる。急いで、そこに入り込む。農作業用のいろいろな物が置いてあったが、少しは入れる余裕があり、やれやれとほっとする。すぐに、私のあとから幼児を自転車に乗せた若い夫婦も入ってきた。ひとしきり言葉を交わし、雨の上がるのを待つ。よく降ったが、15分位で明るくなり雨も止んだ。もし、止まなかったら目的の最南端の地には、行けないところであった。通り雨で幸いした。私が先にこの小屋を出て、目的地に向かう。例の夫婦の3人連れは後から来る。途中お願いして、波照間島を走っている姿を写真に撮っていただく。この夫婦は神奈川県から来られた渡辺さんという。出身は新潟県で、暖かい所へ行ってみるのが夢だったそうだ。

まもなく、日本最南端の地に立つ。雨上がりの快晴で、本当に絶景だ。足元には南の島の草花、紺碧の海、濃茶色の岩、高く澄んだ空、白い雲、どこまでも広く続く水平線、いつまでも居たい気持ちだった。たくさん写真を撮り、最南端の地に咲いていた花もカメラに収めた。例の夫婦とも写真を撮り合った。東方向に星空観測の建物があった。



日本最南端の地



エメラルドグリーン「西の浜」

つづいて、島の一周道路を走り西に向かう。途中、貸自転車で島を回っておられる方とすれ違う。お互いに声を掛け合う。その内に、一段と大きな声がかかった。例の船中で出会った仙台の女性だ。止まって、その後の様子を交歓する。船酔いは直った。昼食も食べれたとのこと。お互いの無事故を祈り合って反対方向に分かれる。

何でも屋で日本最南端の地に来た証が発行されると聞いて、再度立ち寄り500円で日付の入ったものを購入する。つづいて、西の浜ビーチに行く。ここも、エメラルドグリーンで陸には所々大岩もあり、遠浅で美しい。若い人たちが、たくさん海を楽しんでいた。再びあの若い3人家族と一緒に、記念写真を撮る。ここから、さらにウコンの群落を見に行き、港に向かった。

15時、波照間島出港。帰路は船室でゆっくりする。17時25分石垣港に着く。すぐに「YHハ州旅館」に入る。すでに、5~6人の男女が交流部屋に集まってくつろぎ、歓談していた。挨拶と少々話しをした後、入浴(シャワー)を済ませ、ダイビングショップ「アイランドクラブ」へ向かう。「アイランドクラブ」では、歓

迎してくれる。妻に送ってもらった器材はすでに届いていた。手続きをして、明日の予定を確認して帰る。

夕食は、YHの方に紹介してもらった、「あさひ食堂」に行き、〈ゴーヤ炒め〉を注文する。色々な具が入りボリュームもたっぷり、豚のソーキとサラダもついて、500円とは思えない豪勢な夕食だった。

夜は、20時30分から歓談会、八重山泡盛をいただきながら、交歓した。毎年、休みをとって楽しみに来るといふ会社員の方は、沖縄の三味線「三線」で沖縄民謡を弾いて歌ってくれた。私の母校広島大学の生物生産学部の女子学生が居り、同窓のよしみで一番よく話した。彼女は、夏休みを利用して八重山地方の島々を巡っているという。明日は、西俵島に行くとのこと。これも素晴らしいと思う。その後洗濯。22時30分就寝。



「YHハ州旅館」交歓会

男女別の相部屋で、隣に寝ている話し好きのユニークな中年の独身男性はいびきが大きく、少々眠りの妨げになった。

※ 今日のデータ

到着	8時40分	石垣港到着	出発	9時00分	石垣港出港
到着	11時20分	波照間港到着	出発	15時00分	波照間港出港
到着	17時25分	石垣港到着	17時40分	YHハ州旅館到着	

第15日 9月13日(水) 晴時々曇

ダイビング「石垣の海・3ダイビング」

石垣市 [YHハ州旅館]

台風が接近しつつあるということで少し心配したが、まずまずのよい天気です。予定通り3ダイブ行なう。

インストラクター 蛭子泉さん アシスタント 北村恵里さん

お客 若い男性1人 若い女性2人 私 の4人



ダイビングポイントへ

もう一つのショップと一緒にいくということで、総勢11名で出港する。若い男性は大阪から来たライセンスを取得したばかりの人。若い女性2人は、千葉から来たダイビング歴160本のベテラン。別のショップの方は、インストラクター男性1人、女性1人、お客は年配の男性1人、東京から来た30歳代の男性1人、広

島出身の東京在住の中年男性1人だ。

○ 1本目 竹富島の南 ポイント「バナバナ」

水深20m付近を遊泳。大小さまざまなカラフルな魚たちがいっぱい、サンゴも美しい。透明度もよく、潜ってよかったと思う。



珊瑚礁と魚たち

○ 2本目 川平沖 ポイント「マンタスクランブル」

大きく広げた羽2～3mはあるマンタに2度会えた。いつ見ても感動だ。

○ 3本目 大崎沖 ポイント「大崎」

水深25mの深みに行き、ヤシャハゼ・ヒレナガネジリンボウを見る。写真がうまく撮れていればよいが。深さ12mにもどり、十二分にきれいな魚たち・さまざまなサンゴを満喫した。

3本とも、浮上前水深5mで3分間の安全停止を行なった。休憩中、船上でログブックをつける。台風の影響もなく、十分に楽しんで本当によかった。千葉から来た女性は平賀さん・金井さんという。軽器材は、蛭子さんに送料前払いで送ってもらうことにする。ありがとう。

宿に帰り入浴。夕食は、中心街にある人気の店「南の島」で沖縄料理とビールで沖縄を味わう。

夜は、20時30分から歓談。今日のメンバーは半分は新しい人だ。洗濯器をかけておいて歓談をする。明日は早い出発なので、できる範囲で荷物をまとめ、自転車に5つのバッグとテント・銀マットを取り付ける。23時就寝。

※ 今日のデータ 終日、ダイビング



悠々と泳ぐマンタ



第16日 9月14日(木) 曇

石垣港(フェリー・飛龍)～那覇港 那覇港[那覇新港待合所] テント泊



飛龍

5時40分起床。台風の影響で、出港できるかどうか心配したが、出港には支障はないということで安心。

6時05分にYHを出発。出発時、奥様より食事にしてくださいとパンをいただく。感謝。「飛龍」は大きな船だ。部屋は二等263号室、6人部屋だ。1人1人カーテンで仕切られており、バス・トイレ付きである。

船中で當さん一行4人とめぐり合い喜び合う。レストラン控室で歓談。朝食に手作りのおにぎり・パンに果物をよばれる。

海は、台風の影響か波が大きく、船も大きくゆれる。多良間島を見ている時、トビウオの群が見られた。イルカが見られることもあるそうだが、今日は波が3mもあり、見ることはできなかった。

まもなく、伊良部島が見えてきた。ここは飛行機の発着訓練飛行場があるということで、飛行機が飛び立ったり、飛んだり、着陸したりを繰り返していた。



石垣港

宮古島は、割合大きな町で驚いた。港に接岸したので、係官にお願いして特別に上陸させてもらう。写真撮影をする。これで宮古島に立ち寄った証になる。

昼食も、當さん一行の生徒さんの作ったラーメンをごちそうになる。生徒さん手作りのクッキーもよばれた。おまけに、同じく手作りのパンを今後の食事にといただく。食後、16時まで記録をつけたり、昼寝をしたりした。

夕食は、レストランで焼肉定食とビール。つづけて、20時30分まで記録を書く。その後、當さん一行4人と一緒に写真撮影、一人ひとりと握手して再会を約し、別れる。



牧師さん一行と歓談・飛龍船中

22時那覇港入港。少し風はあるが、雨の心配はなさそう。下船場所から約1km離れた那覇新港待合所に行き、ここでテント泊することにする。若い学生さんから今日はここに泊まるのですかと聞かれて、そうですと応えようと私もそうしますと言って、2人で並んでテントを設営する。

しばらく、2人で座って話す。彼は、奈良大の3年生で出身は神奈川県。今回は夏休みを利用して、自転車で奈良を出発、四国88ヶ所を巡って、九州西側を下り、沖縄南半分を走り、石垣島に2日居て、この「飛龍」で再び沖縄に来たところだという。これから沖縄を3~4日走って、9月18日頃フェリーで神戸港に渡り帰着する予定だという。また、帰国子女で小学校5年生まではイギリスのロンドンの学校で学んだ、ということ。帰国後は父の勤務で北海道に住み、北海高校で陸上・ホッケーをしていたという。よく気のつく、よく動く好青年である。明日からの予定を話すと、一緒に行こうということになった。

夜は、少々車の音があったが、時々目が覚める程度で大体眠れた。

※ 今日のデータ 石垣港（フェリー・飛龍）～那覇港

☆ 9月11日（月）～14日（木）のデータ

走行距離 42.33 km 走行時間 3時間02分59秒
平均時速 13.8 km/h 積算距離 1013.26 km

第17日 9月15日（金） 晴時々曇

那覇新港～名護市

民宿 [南海]

5時30分起床。係員に早く撤収するように言われる。それでも、洗面所などが使えるように6時15分には開けてくれて、使いなさいと親切にしてくださる。本当は6時30分開錠だそう。

7時出発。コンビニでサンドイッチと牛乳を買い朝食。学生さんはもう食べたということで、私の食事中待っている。国道58号線を北に向かう。道沿いにハイビスカスやア〇〇〇〇などの南国の花や木が心を和ませてくれる。米軍施設キャンプキンサーでは、街並みが米国の西部劇そのもののたたずまいで外国へ来たようだった。右手に普天間飛行場、とても広い敷地だ。この辺りで激しい通り雨に見舞われ、GSで少々雨宿りさせてもらう。すぐに止み再出発。学生さんはタフで上りや平坦ではどんどん離れていく。私は写真を撮りたいので、それぞれのペースで走り、万



残波岬

座ビーチで落ち合うことにする。

北谷町では、椰子の並木を走り嘉手納飛行場を見る。歩道橋に登って見たが、広大な基地だ。

伊良皆から県道6号線に入り、残波岬へ。やや上ってから岬へ下って行くと、左手に残波ビーチ、多くの人々が海を楽しんでいる。岬には高く白い灯台があり、陸の先端まで行くと断崖になっていた。下をのぞくと釣り人が竿をさしている。何が釣れるのか聞いて見ると、グルクンを釣っているという。沖縄の美味しい魚だ。岬の左手は平たい浜で白波が立ち、右手は切り立った断崖が続いている。岬全体は草花や建物があり公園になっている。ここでジュースを飲み、水をいただく。

坂を上り恩納村へ向かう。真栄田岬への道は、なつかしい。恩納海岸ムーンビーチでは、水上ス

キーやその他沖縄らしい海のレジャーを楽しんでいる風景が見られた。ホテル「ムーンビーチ」へ寄ったが、3年前にお世話になったインストラクター西山さんはすでに居られなかった。この辺りはずっと海のリゾートが続き美しい。道路も走りやすく快適だ。ただ、少々向い風なのがいやだ。

万座ビーチで彼は待っていた。正確には万座海洋公園、ビーチの方は入園料がいるからだ。コンビニ「HOT STAR」でビールを2本買って、彼と一緒にのどの渇きを潤す。彼は一しきり泳いだとのこと。昼食はここから少し行った所でとる。〈沖縄近海魚のチャンプル〉というのを食べた。ミンチになったもので、あまり変わり映えはしなかった。彼は本当においしそうによく食べる。足りないとチャーシューメンも食べた。



万座海洋公園

當さんの農園に行くということで、彼も同行することになった。彼の名は「鈴木悠太」ここで始めて聞く。當さんは、県道71号線の入口まで迎えに来てくれた。



當さんの自然農園・バナナの花

車で約15分。聞いていた通り、家は山の中にあった。亜熱帯の果物の木が自生したり、植えてある。バナナ、パパイヤ、マンゴー、ガバ、……。周りは〇〇〇ヤシに囲まれている。手作りの家に住んでおられる。奥様もとてもいい方で、心から歓迎してくださる。ガバのジュースはとても甘くおいしい。バナナで作ったお菓子・ケーキもいただいた。集会兼研修のための建物を建設中だった。これも手作り。約1時間歓待をいただいて、再び国道58号線まで送ってもらう。

台風が心配なので、名護市街にもどり安宿を探す。鈴木君の行動力で1泊2500円という民宿「南海」が見つかった。行ってみると、すでに満室でだめだという。何とかならないかと懇願すると、“改装工事に入りかけている部屋が一部屋ある。

クーラーもないし、工事用の材木も置いてある。床の板のままでよければ、ふとんは用意する。それでよければ2000円でよい。”というので、“了解。OKです。”と即答し宿泊が決まる。2人で入室。十分休むことができる状況だ。洗濯・洗剤いずれも無料。外に干す。風呂はシャワー。夜は、ご主人夫妻の仲間で懇親会をするという。誘われて、鈴木君と2人で参加する。大いに盛り上がる。飲み物は、泡盛、肴はグルクンの唐揚げなどさまざまな沖縄料理、いかの刺身、マグロと白身の魚の刺身、……。大ごちそうだ。よく飲み、よく食べ、よくしゃべり交流した。沖縄の方は本当に明るい。



民宿「南海」にて懇親会

※ 今日のデータ 出発 7時00分 到着 17時20分
 走行距離 86.58 km 走行時間 4時間13分30秒
 平均時速 17.6 km/h 最高速度 47.6 km/h
 積算距離 1099.84 km

第18日 9月16日(土) 晴後曇後雨(暴風雨)

名護市～海洋博公園～名護市

民宿[南海](連泊)

2人で話し合っ、台風13号接近により本部半島一周(海洋博公園見学)とすることにし、今日も民宿「南海」に宿泊と決める。

7時35分2人で出発。今日は追い風、30km/h前後で走る。アップダウンも大したことなく、海洋博公園に1時間で到着する。その間、鈴木君のパワーは大したもので徐々に離され、その内に見えなくなる。私は写真を撮ったりしながらマイペースで行く。



海洋博公園にて・鈴木悠太君と

海洋博公園はにぎわっていた。きれいに整美してあり、入場料もいらない。島民の憩いの場として、観光客の癒しの場として素晴らしいと思った。売店でボトルに水をいただく。エスカレーターもあり、設備・施設も以前より大分よくなっている。

浜辺に降りてみる。しばし海を見ながら浜を歩く。伊江島をバックに二人で記念写真を撮る。

海洋博公園を出て、今帰仁入口を通り我部祖河へ向かう。途中、珍しい植物の

ある農園の写真など撮影しながら進んでいった。ただ、今度は強い向かい風で10km/h～15km/hの速度でしか走れない。アップダウンもあり苦しかったが、何とかクリアした。鈴木君より大分遅れて我部祖河町へ着いた。我部祖河町の海は屋我地島に囲まれた内海で、貨物船などがたくさん停泊していた。屋我地島の沖にある古宇利島には、今は橋が架かっているそうだ。

我部祖河町で昼食にする。スタミナのため焼肉定食にする。台風情報をTVで見ると、明日は暴風雨だという。出発間に雨がぼつぼつ降り始める。県道71号線を走って大雨になる前に宿舍の民宿「南海」に帰着する。

しばらく、宿でゆっくりしていたが、16頃大風・大雨になってきたので、外に出られる内にと、鈴木君と一緒に早めの夕食に出る。お食事処「田舎」で、珍しそうなパイヤチャンプルを食べる。帰りにローソンで明朝の牛乳とソーミンチャンプルを買う。明日は一日待機のつもり。宿で、鈴木君と語り合う。彼は、武士道に強い関心を持ち、明治の日本人の持つ精神を現代に取り戻すべきだと語った。現代の日本人の失ってきた大切なものを復活させたいという私と同じ考え方を持つ青年がここに居ることに、私は震えるような頼もしさを感じた。これまでのこと、今のこと、今考えていること、これからのことなど夜遅くまで語り合った。深夜、暴風雨となる。



農園で見た珍しい作物

※ 今日のデータ 出発 7時35分 到着 14時10分
走行距離 62.87 km 走行時間 3時間32分22秒
平均時速 17.7 km/h 最高速度 44.6 km/h
積算距離 1162.71 km

第19日 9月17日(日) 曇(強風)

名護市～辺土岬～国頭村 国頭村・道の駅[ゆいゆい国頭] テント泊
台風は深夜に沖縄をかすめて通り過ぎ、朝は風も弱まり、雨も止んでいた。これは行けると判断し、風が弱まる10時に出発と決め荷物を整理する。鈴木君は一緒に行きたいのだが、大学が始まるので帰らなければならないということで、ここで那覇に向けて引き返すことになる。

互いに名残を惜しみながら、10時20分、彼に見送られて辺土岬めざして出発する。往きは追い風、30 km/h前後で走る。強い風で海の波は大きく、所によっては3 m～4 mの波が押し寄せてくる。辺土岬まで、車は結構走っている。バイクの旅行者も多い。数台連なって勢いよく追い抜いていく。



辺土岬

宜名真トンネルの上りを抜けて高さ30 mからの展望は絶景だ。岬の手前の農園で農作業中のおばあさんに声をかける。台風の影響を心配して見に来られたとのこと、大きなパイヤを一つ持って行きなさいと出されたが、大変な荷物になるので、気持だけいただく。

辺土岬に到着。ここにも観光客はたくさんいた。すぐに沖縄最北端の断崖の上に立つ。ここは隆起した珊瑚礁だそうだ。海の景色は雄大で、海岸線もきれい。「本土復帰闘争の碑」が建っており、往時がしのばれる。辺びな所というイメージを持っていたが、名護から50 km、そんなに遠くないと思った。

帰りは来た道を引き返す。道沿いの海は豪快だった。強い向い風で、押し寄せる波は3m～4mもあった。岩にぶつかる波は10m位跳び上がる。波しぶきが自転車や体にかかった。国頭村に戻り、「やんばる野生生物保護センター」に見学に行ったが、休館日でも残念だった。



ヤンバルクイナ

道の駅「ゆいゆい国頭」の支配人さん、気持のよい方で、“テント泊、いい所を選んで張りなさい。”と言われ、板床の屋根のある所に設営した。付近の散策をし、夕食をとり、体をふいて、記録をつける。22時就寝。夜は、若者たちの一晩中の声で眠れなかった。

※ 今日のデータ 出発 10時20分 到着 16時00分
 走行距離 75.30 km 走行時間 4時間00分04秒
 平均時速 18.7 km/h 最高速度 ? km/h
 積算距離 1238.01 km

第20日 9月18日(月) 曇時々雨
 国頭村～瀬嵩

名護市瀬嵩 [海風まぶい宿]



道の駅「ゆいゆい国頭」

6時20分起床。夜の若者たち数名いる。少しして去って行ったが、残されたテーブルの上には、空の一升瓶や缶、食べ物の残り粕がいっぱい残されていた。沖縄の若者はいったいどうなっているのだろうか。

すぐに雨が降り出した。後片付けをして、バッグにレインカバーを取り付ける。少し小降りになったので、合羽を着ないで出発する。今日は、風は収まっており、岬に向かう所だけ強い向い風だった。塩屋で強い本降りにな

ってきたので合羽を着る。沖縄中北部を横断する塩屋～東村間は大体平坦で、東村の手前で少し上りがあった。それでも、合羽を着ているので汗びっしょりになった。

東村道の駅で少し休憩。雨は降ったり止んだりだ。雨が止んだのを見計らって合羽を脱いで出発したが、5分後から本降りになってくる。道そばにあった小屋の軒下で雨の完全装備をして再出発。まもなく、長い曲がりくねった道の上り、懸命にこいで登って行く。ゆるやかなアップダウンの後、ヒルギ林公園に着く。慶佐次川にマングローブが群生し、林となっている。この川には、片方が大きな爪のちいさなカニがいるというのも特徴ということである。見学の時だけ雨が止んでラッキーだった。



ヒルギ林・マングローブ

ここから一旦下り、その後がまた曲がりくねった長い上り、天仁屋まで再び懸命にこいで登る。下りの時は50 km/h近くのスピードに乗って楽で気持ちよいが、登りのことを考えると一旦登ったら下って



沖縄中北部の自然林

ほしくない。天仁屋から天仁屋川まで気持ちよく下った後、3度目の上りとなる。さすがにくたびれて3分の2登った所で降りて押して登る。この辺り素晴らしい自然林だ。少し平坦のあと嘉陽まで下る。ここで小休憩。そのうちに雨が止んだ。あと少しで三原だ。ここから三原までもアップダウンが数回あったが、頑張った。三原小学校で飛龍船中でお世話になった仲嶺さんの迎えを待って、一緒にお宅に向かう。

13時30分、仲嶺さん宅に到着。こちらの家も大自然の中にあった。洋風の簡易な建物だった。奥様と三男さんに歓迎される。いろいろとお話をしながら、三男さんはマッサージ師ということで全身をマッサージしてくださった。仲嶺さんには聖書のお話の数篇を聞いた。その後、畑田恵さん宅へ車で約30分、訪問。少し休憩、お話をする。パンをお土産にいただく。仲嶺さん宅では、出かける時にお祈りをしていただく。當さんの時もそうだった。17時仲嶺さん宅を辞す。



仲嶺さんご家族

今日の宿 [海風まぶい宿] には、18時10分に着いた。〈まぶい〉とは〈魂〉という意味だ。長期宿泊の客が数名おられる。基地反対闘争をしている60名の男性、東京から一週間の休暇をとって毎年やって来る会社員、浦添の74歳の男性、…。すぐに入浴、洗濯をしてから、みなさんと一緒に夕食をとる。いろいろ話しながら、ご主人さん手作りの料理と泡盛をいただき楽しいひとときとなる。ご主人は、これまで北海道や仙台などの自然の中で生活してきて、6年前にここに来られたという47歳の自然人だ。

その後、今日の記録をつけ明日の予定を立てて、22時30分就寝する。

※ 今日のデータ 出発 8時30分 到着 18時10分
 走行距離 47.02 km 走行時間 3時間02分18秒
 平均時速 15.4 km/h 最高速度 ? km/h
 積算距離 1285.03 km

第21日 9月19日(火) 晴

名護市瀬嵩～玉城村百名

玉城村百名 [吉田吉雄さん宅]

今日は風も止み、天気もよい。タイヤに空気を入れる。8時出発。国道329号線に入り、辺野古への上りはきつかった。左右に曲がりながら登っていくが、急激な上りではなかったので頑張れた。途中、車で出勤中の仲嶺さんより声をかけていただく。感謝。登りきると辺野古までは下りで爽快に進んだ。辺野古の基地の前で佐久間さんが基地反対の大旗(看板)を通行者に見せていた。すごいバ



基地反対闘争・佐久間さん



嘉数さんご家族

イタリティーだ。雑誌記者が取材・撮影していた。私も取材・撮影を受ける。この記者さんに、佐久間さんと一緒に写真を撮ってもらう。

この後も、金武町を過ぎるまでアップダウンが続く。金武町の下り切った所で小休憩。ここで、今日立ち寄ることになっている嘉数さんからTELあり。屋嘉というところで、国道まで迎えに出てくれていて嘉数さん宅を訪問する。お母様と3姉妹の家族に歓迎される。冷たいジュースをよばれて交流する。長

姉は重度の身体障害者、でも話しかけたり関心を持っていくとうれしそうな表情になる。妹さんは清らかな利巧そうな子、母はやさしい求道者。みんなで写真を撮る。出かけにお祈りをしてくださる。弁当とお餅をいただく。

石川市からうるま市に入る所で坂があったが、あとは平坦、キャンプコートニーを過ぎ、県道8号線、37号線と進む。照間ビーチはあくまで遠浅、干潟になっている。13時、与那城の海中道路のたもとに着く。平安座島に長い海中道路が続いている。浜比嘉大橋も見えた。嘉数さんにいただいた菜食弁当で昼食をとる。



海中道路ロードパーク

ここから、中城湾に沿って走り、再び329号線に入る。和仁屋という所で簡易郵便局があり、資金を引き出す。この時、女性の局員さんが、“これで元気に旅を続けてください。姉の所で作っているものです”と黒糖飴をくださった。沖縄の人は本当に親切だ。一つ頬張って出発する。

この後、知念村まではずっと平坦、マイペースで気持ちよく走る。佐敷町で左手にシュガーホールという建物があった。係員に聞くと、“周りが砂糖きび畑に囲まれていて、町の文化会館です。”といわれた。沖縄には至る所に〈砂糖きび畑〉があった。

椰子の並木を通して知名崎を回ると安座ビーチ。このビーチは施設も環境もよく整備されているようだ。ここを登り、斎場御嶽（セーファー・ウタキ）入口を通り知念村に入る。ここから、いくつものアップダウンがあり、走行距離も100km近くになり、やや疲れた感じ。岬には知念村の詩人平敷屋朝敏の詩碑があった。

百名に着き、當さん紹介の牧師吉田吉雄さんに連絡すると、国道入口まで迎えに来てくれる。吉田さんご夫妻に歓迎される。早速シャワー入浴、洗濯、家は工事中ということで、工事中の別棟の屋根付大テラスにテントを張らせていただく。夕食は玄米弁当とゴーヤチャンプル。大豆の揚げ物もおいしかった。色々勧められる



吉田吉雄さんご夫妻

ので大満腹になる。ご主人、賛美歌を歌い、聖書のある一篇を朗読される。キリスト教信者の信仰の深さを感じる。ご夫妻とひとしきり話にはずみ、21時30分テントに辞す。

※ 今日のデータ 出発 8時00分 到着 18時00分
走行距離 108.37 km 走行時間 6時間24分30秒
平均時速 16.8 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 1393.40 km

第22日 9月20日(水) 晴

玉城村百名～那覇市 那覇市 [ライガーハウス・BASE OKINAWA]



沖縄の日の出

6時起床。太平洋を昇る太陽、遠く海面には雲がたなびいており、水平線から昇る太陽は見られなかったが、太陽が少しずつ昇り輝きを増していく光景をずっと見ていた。写真撮影。

荷物をバッグに収納し、朝食をいただく。玄米飯にへちまとふの味噌汁、野菜の和え物、あくまでも菜食だ。昼食と間食にと手作りのケーキ、バナナ、卵、野菜ジュースを持たせてくださる。出発に当たってお祈りをさせていただく。

今日もアップダウンの道を走り平和祈念公園に至る。資料館を見学。再び、沖縄戦の地獄を見る。長野県の高校生が修学旅行に来ていた。先生や生徒から励まされる。展望台から周囲を一望する。浜は小さい干潟もあり、摩文仁の断崖も見える。今は、明るい素晴らしい風景だ。公園内の何百もの礎が激戦の跡を示していた。

下に降りて、吉田さんよりのバナナ、卵、野菜ジュースをいただく。

糸満観光農園に引き返す。売店のおばさ

んも親切に心配りをしてくれる。パッションジュース(170円)とてもおいしかった。少し走り「ひめゆりの塔」を見学する。いつ来ても、沖縄戦の悲惨さに胸がつかまされる。

ここからは、ずっと平坦な道。糸満市のコンビニで昼食を購入し、海辺の公園に行く。屋根付の立派な休憩所が4つあり、作業をされる男女の方々が座って歓談・食事をしておられる。そのうちのひとつに入れてもらって昼食にする。あいさつをすると、自転車の日本一周の表示を見られて、男性の方々が色々話しかけてこられる。女性の



ひめゆりの塔

方も年齢を聞いたりされて、すぐに仲良くなる。この方々は、大部分はシルバー人材センターの方々で、公園の草刈等整美作業をしておられ、ごく一部の方は50代の人で仕事がなく、ここに来て飲んだり話したりしているとのこと。この方々の言われるには、「沖縄は貧しい。仕事がない。基地の仕事はあるが産業がない。したがって、失業率は日本一。政治は我々に向いていない。この声を国に届けてほしい。」ということであった。沖縄の現状を直接こうした人々から聞いて、沖縄の産業の振興は急務だと強く思った。それにしても、沖縄の人々はおおらかで明るいと思う。なぜだろう？



シルバー人材センターの方々と交歓

ここからも快調に走り那覇市に入る。交番で聞いて、ライダーハウス「BASE OKINAWA」に着く。お客さんは大体一杯に近いようだった。若い人が多いが、年配者もおられる。ライダーばかりでもないようだ。私の部屋は4人部屋だったが、私一人だった。すぐに、シャワーを浴びて、破れたパニアバッグを直しに近くの洋服屋さんに行った。特殊なバッグなので直せなかった。

お土産をまとめて買って自宅に送付しようと「あきなわ屋」(スクランブル店)に行き、ここで洋服等の修理について尋ねると、むつみ橋通りに洋服(呉服)屋さんがたくさんあるという。行ってみると、尋ねた二軒目「まるしま工房」の女性マスターさんが親切に“針と糸をあげるから、自分で修理したら。”と言われる。“ありがとうございます。そうさせていただきますか。”と答えて、針と糸をいただく。感謝して、名刺をもらう。

一旦宿に帰り、夕食。その後、土産を買う人の一覧表を作り「おきなわ屋」(本店)に行く。ここで、数十点の買い物をして送付してもらう。

宿に帰り、バッグを修理した。うまく縫えてほっとした。「まるしま工房」の女性マスターさんに感謝。少し記録をつけて、23時就寝。こうした訳で、今日は宿の人や同宿者と交流できず残念だった。

※ 今日のデータ 出発 8時00分 到着 14時30分
 走行距離 50.94 km 走行時間 3時間33分00秒
 平均時速 14.3 km/h 最高速度 ? km/h
 積算距離 1444.34 km

第23日 9月21日(木) 晴

那覇港～鹿児島港

フェリー船中泊

5時30分起床。今日は那覇港出港7時00分、早い出発だ。荷物をまとめバッグに収納、自転車にセットする。6時15分出発。那覇港待合所受付で乗船手続きを済ませ、自転車ごとすぐに乗船。予定より2～3分早く離岸する。

二等室・部屋Eには40席あるが、乗客は私を含めて5名だった。行きはぎっしりだったが、今日はとても楽だった。

昨日まで走って来た沖縄本島を見ながら、何か離れがたいような、慈しみみたいなような、懐かしいような感傷的な気持ちになっていた。それにしても、沖縄本島は長い、どこまでも続いている。本当にあそこを走ってきたのだろうか、しかもた



那覇港

った5日間で、と思うと信じられないような気持ちになる。伊江島には建物がたくさん見え、中央にひととき高い山が空に向かって突き出ている。本島側だけ集落があり、裏側は米軍の基地となっている。島の北部のビーチ・キャンプ地には若者が多く訪れるそうだ。本島の海洋博公園も美しく見えた。

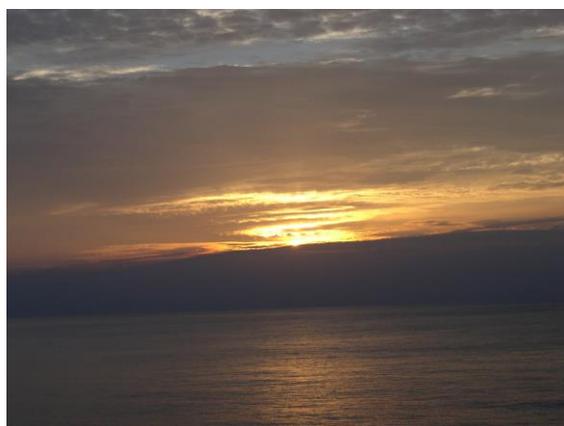
11時与論島に寄航。海・山が澄んで美しい。水深15m位だろうか、海底までよく見える。ここでE室に1名乗船。

与論島を出港し、トビウオの群れ飛ぶのを

見る。また、12時、レストランで昼食（カレーライス）を摂る。向かいに座られた年配の男性に話しかける。仕事で嘉手納に20日間単身で居り、実家の宮崎に帰るところという。紙の会社に勤めており、日本各地に出張することのこと。時にはのんびりと船もいいだろうと、今日はフェリーに乗った。外国のチリに行ったこともあるそうだ。現在65歳で、もう辞めたいと希望しているが、辞めさせてくれない。子ども3人も独立したし、近々、本当に辞めて妻とともに北海道旅行をしたいとのこと。与論島で乗船された同室の方だった。この後、開放されているレストランでこの記録を書いた。沖永良部島で3名乗船、15時現在E室9名である。

16時徳之島寄港。17時10分、レストランで夕食。ビール350mlと焼肉定食、おいしい。食欲あり、ごはんお替りをする。

18時過ぎ、夕日が水平線に沈むところを撮影しようと思ったが、水平線には遠く雲がたなびいて、やむなく雲に沈む瞬間を撮影する。20時頃仲嶺さんよりTELあり。“気をつけて行って”というメッセージ、“ありがとう”。



東シナ海の雲間に沈む夕日

20時20分名瀬港に入港。携帯充電のためレストランへ行く。ここで、NTTにお勤めの65歳の男性の方と話す。真面目なおおらかな方で、約2時間携帯の充電ができる直前まで話す。この方の言われるには、年金は多少にかかわらずありがたいと思わなければ、“上を見りゃあきりが無い、下を見りゃあこれもきりなし、現状をありがたいと思ひ、その中で最善を尽くすことが大切と思う”。そして、“いつまでも元気で勤めたいと思うが、粗末に扱われても何ともない。しかし、仕事に対するプライドと実力はしっかり持っている。”と信念を語られて、その生き方にとっても引きつけられるものを感じた。23時30分就寝。

夜中、翌22日午前4時00分目覚める。暗やみの中、屋久島灯台の回転する光を見る。

※ 今日のデータ 出発 6時15分

那覇港出港 7時00分 鹿児島新港着 翌朝8時00分

第24日 9月22日(金) 晴

鹿児島新港～颯娃町

鹿児島県颯娃町〔番所鼻自然公園〕テント泊

定刻の8時00分鹿児島新港に到着。国道10号線を追い風に乗って快調に南下。途中、「大島紬の里」に寄る。ここで館員に大歓迎を受ける。解説をしてもらい、機関紙に載せるとのことで取材と写真撮影、びっくりしたり、うれしかったり。



薩摩焼酎資料館

つぎに、「さつま焼酎資料館」に寄る。中に入り、見学。つづいて、「喜入の石油基地」広い敷地に大きな円筒形のタンクがいくつも並んでいる。港には、輸送船と思われる船が接岸していた。

指宿まで、多少のアップダウンはあるものの、殆んど平坦で追い風に乗って爽快に走る。指宿では、知林が島につながる砂の架け橋、砂むし温泉を見る。砂むし場では、若い女性4人組が写真を撮らせてくれる。

山川港から長崎鼻へはアップダウンがあるので、平坦な道を聞くと親切なおばさんが、くわしく教えてくれる。少し、楽に進めた。

長崎鼻に着く。天気は快晴素晴らしい眺めだ。特に開聞岳が美しい。ここで、由宇町地域振興課にTELする。朝見さんと妹幸子にもする。家には毎日しているが、この時は出ない。砂浜で開聞岳をバックに写真撮影。修学旅行中の大宰府市立学芸院中学校の生徒たちに色々と質問され、写真を一緒に撮る。先生にも励まされる。

開聞岳山麓を走り、枚聞神社にお参りする。小学生が手を振って激励してくれる。



砂むし温泉



開聞岳をバックに

ここから、多少のアップダウンのある道を颯娃町まで走る。えい別府温泉センターで入浴、夕食。こちらには宿泊はないということで、教えてもらった「番所鼻自然公園」にテント泊することにする。ここは、開聞岳の見える、海には円形の洲のある絶景の公園だ。すぐそばにある〈いせえび荘〉の社長さんがとても親切な方で、館内のトイレ・水を使わせてくださる。今日は疲れていて、日没後すぐに横になり眠る。しばらく眠ったが、眠ったり時々目を覚ましたりして、テントから出て見ると、

夜釣りをする人が数名あった。伊勢えび等がつれるという。周囲の環境はとても静かで、その後は大体によく眠れた。

※ 今日のデータ 出発 8時00分 到着 17時00分

走行距離 91.76 km 走行時間 4時間45分00秒

平均時速 19.3 km/h 最高速度 ? km/h

積算距離 1536.10 km

第25日 9月23日(土) 曇時々晴

鹿児島県穎娃町～吹上町

吹上町 [吹上浜YH]

6時起床。片付け、出発準備をして、いせえび荘の社長さんにお礼に行く。すると、黒糖を2袋くださって、元気で完走してくださいと励まされる。

枕崎まで、アップダウンのある丘陵地帯を元気に走る。海がきれいだ。枕崎で朝食を買い、枕崎港の見える松林の公園で昼食・休憩をする。この間、カメラ店でデジカメカードの写真をCDに書き込みをしてもらう。郵便局に寄り、余分になった荷物と黒糖ケーキと今日いただいた黒糖1袋を家に送る。この局の外で小学生約10名と出会う。私に興味津津で色々質問してくる。学校の学習でバリアフリーの必要な所を調査しているという。総合学習か人権学習なのだろう。みんな快活でいい。



番所鼻自然公園

枕崎市から吹上町への国道270号線は思ったより平坦で、あまり苦勞せずに走る。途中、久木野という所の小さいお店で小休憩する。

吹上浜海浜公園に至り、広場で体を動かしたり、周りを見て回ったりしてくつろぐ。ここで、吹上の自転車レースで優勝したという若者と出会い互いに感激。一緒に2ショット。公園内のレストラン「るびなす」で昼食をとる。



吹上浜海浜公園

吹上浜海浜公園を出て、吹上浜砂丘自転車道を走る。多くの子どもを含んだ家族がサイクリングを楽しんでいる。しばらく走っている内に、どこかで道を間違えて国道270号線に出る。そのまま国道270号線をコンスタントに走る。

途中、今日宿泊の吹上浜YHのご主人と車ですれ違い、宿までの道順を教えてください。宿に到着後、すぐに入浴。とてもすべすべしたいいい湯だ。特別に洗濯をさせてくださる。夕食後、ゆっくりし、今日の記録をつける。

※ 今日のデータ 出発 7時40分 到着 17時30分

走行距離 73.14 km 走行時間 4時間25分20秒

平均時速 16.5 km/h 最高速度 ? km/h

積算距離 1609.24 km

第26日 9月24日(日) 晴

吹上町～水俣市

水俣市 [湯の児温泉・公園] テント泊

吹上浜YH前で写真撮影後出発。国道270号線を進む。多少アップダウンある



吹上浜 YH

も快走。半袖で、少し寒さを感じながら走る。串木野市に入り走行中携帯に颯娃町の前田さんから申し訳なかったと電話が入る。この方は、颯娃町での宿を約束していた人で、当日急に事情ができてだめになったのであった。胸が熱くなる。

川内市への峠で、串木野市立旭小学校の運動会に出会う。開会前の入場行進楽しく見させてもらう。川内市を過ぎた所の日野自動車工場でタイヤに空気を注いでもらう。快調になったように感ずる。

海沿いに鹿児島街道を快走。阿久根市

に至る。ここの道の駅を過ぎて、少し行った所で日本一周8回目という渡部さん(74歳)にすれ違い呼び止められる。私は、大ベテランに大変興味があり、色々と尋ねたり話したりしたかったのだが、この方は、ご自分の自慢話たらたらで、色々な新聞に載った記事とか、ファンから届いた手紙やらをつぎつぎに見せられ、うんざり。聞きたい気持ちも失せて、早く別れて進みたかった。こんな日本一周者にはなりたくないと思った。いつか、錦帯橋で出会った八幡さんもそうだった。

出水市「鶴の里温泉」で昼食。今は、鶴は北帰行して居ないので、飛来地へは行っても何もないということで行かなかった。

水俣市では、水俣病資料館「エコセンター」に行った。大変な惨状が確認できた。今は、きれいな海が蘇っているということである。さんが帰ってきている写真があり、うれしくなった。泊は湯の児温泉の公園にする。中村さんの温泉風呂に入る。



きれいな水俣の海

このお風呂で一緒になった地元の漁師さん二人と話しているうちに、“まあ一杯飲みながら話そうや”ということになり、お風呂屋さんの店「中村商店」で、女将さんも一緒に4人で歓談する。ビールときびなごをいただきながら色々話を聞くと、このお二人は水俣病発生以前から漁師さんで、発病はされていないのですが、被害の惨状や苦しい生活の話をされました。そして、“今は海はきれいによみがえった。おいしい魚もたくさん獲れる。ただ、報道機関が水俣病の報道ばかりするので、イメージが悪くなり、我々住民には大変マイナスになる。”“患者の救済はしっかりやっていかなければいけないが、今の素晴らしくよみがえった水俣を報道してほしい。水俣を見直



水俣の漁師さんと

してほしい。そして、たくさんの人に来てもらっておいしい魚を食べていただきたい。”“他の地方で水銀汚染の事故が発生すると水俣病という名で報道する。これも心外だ。かつては、漁業も閑古鳥が鳴き、生活が苦しかった。しかし、ずっと漁業を続けてきた。今は、何とか一人前の生活がもどってきた。これ以上苦しめないでほしい。”と言われた。

この地元漁師さんの生の声は、胸に大きく響き、多くの人々に伝えていかなければならないと強く思った。

公園では、人なつっこい子どもたちが無邪気に遊んでいた。

※ 今日のデータ 出発 7時05分 到着 17時00分
走行距離 103.68 km 走行時間 5時間53分36秒
平均時速 17.5 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 1712.92 km

第27日 9月25日(月) 晴

水俣市～熊本市

熊本市 [水前寺YH]

昨夜は少し寒かった。夜中、ジャージを着て寝袋で寝た。はじめてのことだ。でも、これで安眠できた。



佐敷トンネル

今日のコースには津奈木・佐敷・赤松の三太郎の峠があり、大分びびっていたが、標高200mの津奈木峠を登り切り、つぎの佐敷峠は最も高い標高300mと思いきやトンネルの通過で登りの苦労はなく、赤松峠も147mの標高ですっとこいで登れた。ただ、佐敷トンネルは長さ1570mもあり走るのに大変緊張した。事故なく走れてほっとした。

八代からは県道14号線を走る。宇城市の洋食店で昼食。それから、益城郡富合町に入り、木村様奥様の墓参りに行くことにする。

花屋さんを探し、献花を購入し平原へ入る。平木商店という店があったので木村国男さん宅を尋ねると、よく知っておられ平木様奥様は木村様奥様の勢津子様ととても仲のよいお友達だったとのこと。一緒にお墓に参っていただき、心から感謝しました。お茶をよばれ、みかんも旅の疲れにといただきありがとうございました。

水前寺YHでは、これも奥様がとても親切な方で、至れり、尽くせりの対応をしてくださる。肉屋さんを紹介してもらい「馬刺し」(極上しもふり)を購入、夕食とともに賞味する。すごくおいしい。お風呂もゆっくり入れた。洗濯も乾燥までする。その後、日誌に記録をつける。24時就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時20分 到着 16時50分
走行距離 96.80 km 走行時間 5時間33分57秒
平均時速 17.3 km/h 最高速度 51.4 km/h
積算距離 1809.72 km



木村様お墓参り

第28日 9月26日(火) 晴

熊本市～柳川市

追い風に乗って、県道28号線を快走。国道501号線に入り、島原湾に出る。ここも追い風で快走する。河内町の海岸線は歩道がなく、道も狭いので大型自動車が走ってくるとひやひやする。追い越しを待ってくれる車や対向車のない時に右に大きく寄ってから追い越していくという安心の車が多いが、中には私の自転車すれすれに走り抜ける大型車もあり、ひやっとし背筋が寒くなる。

仏崎のあたり、漁船が棒2本を舳先に下ろして前に進んでいる。海の駅「塩屋」で聞いてみると、その棒に網がついていて<えび>をすくっているのだそう。また、有明海苔のたくさんの竿が海中に立っていた。10月にネットを付けて種付けをし、11月以降に収穫するそう。出来不出来は温度やその他の環境によるとのこと。山には段々畑、みかんが太陽の直日光と海からの照り返しと水はけのよい土地でよいみかんができるそう。小さいアップダ

柳川市 [福巖寺境内] テント泊



えび漁



みかんの段々畑

ウンが続いたが、気持ちよく走って行った。

長洲町では、金魚と鯉の郷公園で休憩する。荒尾市では、有明海岸の干潟・干満差とムツゴロウが有名ということで、見学地はどこかと聞いて見たが、ここではムツゴロウは滅多に見られない、鹿島の方がよいということだった。

大牟田市で、石炭産業科学館を見学する。地下400mの擬似炭坑体験もする。日本の発展と国民の生活向上の歴史の一時代を立派に築いたのだと思った。炭坑労働者の苦労もうかがわれた。趣和公園で昼食。

ここから、一気に柳川市に向かう。ムツゴロウランドでムツゴロウが見られるのかと思ったら、ここは児童公園だった。



石炭産業科学館

柳川市に入り、宿を確保するために「福巖寺」に行った。副住職さんに境内へのテント泊をお願いすると、気持ちよく許可をくださった。冷たいみかんジュースと梅のゼリーをいただいた。テントを設営し、市内の見学にでかける。有名な柳川高校テニス部の生徒数名がロードを走っていく。水郷の町、街中に川がいくつもある。柳川水郷の川下り、北原白秋の生家を見る。夕食は、柳川名物のうなぎのせいろ蒸し。さすがにうまい。ビールも2杯。



柳川水郷の川下り

寺にもどると、住職さんがお寺の清掃をしておられ、かんぼの宿の入浴回数券をくださった。早速、入浴に行く。いい温泉だ。展望浴場からの眺めも、とてもきれいだった。

※ 今日のデータ 出発 7時30分 到着 15時00分
 走行距離 86.75 km 走行時間 4時間50分22秒
 平均時速 17.9 km/h 最高速度 ? km/h
 積算距離 1896.47 km

第29日 9月27日(水) 晴
 柳川市～諫早市



福厳寺住職さんと

諫早市 [千拓地・不知火橋下] テント泊
 6時起床。住職さんは庭の掃除、副住職さんは本堂でお勤め。出発前にお礼と記念撮影。副住職さんが、お茶を用意してくださり、水筒にも入れていただき。庭のいちよの樹からとれた銀杏の実を30粒ほど、フライパンで炒ってくださり、持たせてもらった。感謝。

朝走るの少し寒いようだ。丁度、通学時間で学生・生徒たちにたくさん出会う。

大川市に古賀政男さんの記念館がある。早朝でまだ開いてなく玄関で写真のみ撮る。

追い風に乗って、快調に佐賀市南の広域道路を走り、ムツゴロウ見学地に行く。

丁度、満潮の時間で干潟は隠れており、ムツゴロウも見られない。今日の見頃は17時～18時という。一応、見学場所に行き干潟になる場所を見してみる。上岸の葦草の所に満潮が寄せてきており、そこをよく見ると5cm位の小さなムツゴロウが数匹、上げ潮と一緒に泥の中をピチピチしていた。一応、ムツゴロウを見られたので良しとしよう。大きいものは20cmもあるそうだ

つづいて、国道444号線を追い風に乗って鹿島市に行く。祐徳稲荷、日本三大稲荷のひとつだ。朱塗りの神殿は豪華なものだ。お参りをして、朱印をいただく。大竹中新任の頃、職員旅行で来たことがあるが全く忘れていて、全てが新鮮だった。大鳥居がいくつかあった。



祐徳稲荷

ここからは、国道207号線を諫早市に向かう。左岸は広い広い干潟だ。本当に岸から5km位沖合いまで続いている。自然のなす業はすごいと思った。さぎのような鳥が何羽も引き潮を待っていた。途中、干潟の岸で釣竿を垂れている人が居た。ムツゴロウを釣っているのかと思い聞いて見ると、ハゼを釣っているという。15cm～20cmのハゼを3匹も釣っておられた。向かいの海岸に小舟がいくつもつながれていたのも聞いて見ると海苔の種付けをしてネットを張る作業をするのだが、今日は海がしけているので、停泊しているとのこと。この人もその予定だったそうだ。



有明海の干潟

太良町付近から諫早市まで小さなアップダウンが続いて、適度なプレッシャーになるが、走り通して行く。夕方になり宿泊地を探さなくてはならない。まもなく、諫早干拓地の北部排水門が見えてきた。国道から離れ水門まで行ってみる。排水門の外の海はきれいである。排水門の内側も海状になっている。立入禁止だった。写真を撮らせてもらう。国道207号線にもどり南下、今日の宿泊予定地正久寺PAを探すがわからない。さらに進んで諫早干拓道路に入る。すぐに不知火橋という橋があった。かなり大きな橋で河川敷も広がったので、この橋の下の河川敷にテント泊することに決める。テントを張る段になってわかったのだが、橋の上の道路を車が通るたびにガタンガタンと音がする。しまった、向こう岸にすればよかったと思ったが、もう下りてしまったので我慢することにする。夜中中音がしたようだが、大体よく眠れた。ただ、風が強くて少々心配だった。でも異常はなかった。橋の下なので夜露もなく助かった。



諫早干拓地北部排水門

※ 今日のデータ 出発 7時40分 到着 18時00分
 走行距離 93.75 km 走行時間 4時間51分58秒
 平均時速 19.2 km/h 最高速度 52.2 km/h
 積算距離 1990.22 km

第30日 9月28日(木) 晴

諫早市～口之津町 口之津町[口之津保養センター・白浜海水浴場キャンプ場]テント泊
 6時起床。散歩の人が声をかけてくれる。“元気ですねー。”“おはようございます。元気です。”



諫早干拓地・穀物の実り

諫早市から国見町まで、強い向かい風でなかなか進まず、懸命にこぐので腰が痛くなるほど。国見町を回ったら追い風になると、自分に言い聞かせて頑張る。上りの向かい風には閉口する。諫早の干拓地には実り豊かな稲穂が見渡す限り一面をおおっていた。それなりに豊かになっているのであろう。補償金をもらっている人もあるそう。

国見町を過ぎると、徐々に追い風になりスピードもアップする。対岸の熊本はよく見えない。有明町で県指定天然記念物の大ク

スノキがあり見学した。

島原に着き、島原城を見学する。豪壮な美しい城だ。城内には色々な逸品が展示してあった。備前長船の刀・志賀島の金印・キリシタンのマリア像・踏み絵の実物などだ。つづいて、島原の足湯に入る。熱かった。一緒につかっていた人が、“走って来たからだろう。”と言っていたが、本当に熱かった。



島原城

つぎに、土石流災害記念館に入る。VTRが主だったのですぐに出た。むしろ、つぎの土石流被災者家屋の保存公園の方が、実物大でインパクトがあった。

雲仙岳が快晴で、下から全容がよく見えた。隆起しているように見えた。水無川が最も被害が大きかったということで、海まで土石流に埋まったようだ。海べりの家が土石流に埋まっていた。ここから、雲仙岳の写真を撮りながら口之津へ向かう。



土石流に埋まった家屋



雲仙岳

原城跡、国道から自転車で5分というので行ってみた。天草四郎は、この辺りでは英雄だそうだ。キリシタンの末裔でキリスト教を信仰している人は多いということである。

口之津温泉に着き、受付でキャンプをお願いするとキャンプ場にOKとのこと。テントを設営し、早速保養センターで入浴と夕食、今日は豪勢にステーキ定食。夕食後、ロビーで記録をつける。その間、洗濯、乾燥をする。ここの保養センターは宿泊客もあり、内容はホテルと全

く変わらない。ゆったりと過ごせた。水筒に水をもらう。22時20分、テントに帰り、就寝。ゆるやかな波の音が聞こえる。

※ 今日のデータ 出発 7時00分 到着 17時00分
走行距離 79.72 km 走行時間 4時間24分44秒
平均時速 18.0 km/h 最高速度 44.3 km/h
積算距離 2069.94 km

第31日 9月29日(金) 晴

口之津町～長崎市

6時起床。牛乳とバナナで朝食。保養センターで洗面。朝風呂温泉に入る。昨夜と男女が入れ替わっていて、露天風呂にも入る。白浜海水浴場・キャンプ場が一望できた。

荷物を自転車にセットし、保養センターにお礼を言って出発する。飛子までは、小さなアップダウンがつながっていたが、海を見ながら小浜町まで快走する。飛子で小舟がかごを引き上げて漁をしている所を見る。港に停泊して仕事をしている漁師さんに聞くと、タコ漁とのこと。今朝は10匹位獲れたそうだ。近年はあまり獲れないという。

海岸には、火山石と思われる大小の石がたくさんあった。小浜町手前の沖にはイカダがいくつか見えた。中位の舟がイカダに行っている。

湯の町小浜を過ぎて、千々石に向かう県道201号線は海拔50m～100mの

長崎市 [長崎えびすYH]



口之津保養センター

岬状のめぐる道で、山を削って左右崖になったトンネルのような道が3つもあった。ここを走りながら見る海には、四角状のイカダ（いけす）がいくつもあった。聞いてみると、タイとハマチの養殖だそう。今はイカダの数も少なくなっているとのこと。まもなく、千々石海岸が見えてくる。これは〈ちぢわ〉と読むそう。きれいな海岸だ。昔はもっときれいだったとお年寄りの話を聞く。



タイ・ハマチの養殖

千々石を過ぎて、すぐに厳しいアップダウンが3つ〜4つ連続してあり、大変きつかった。峠の愛野展望台から千々石海岸を眺める景色は素晴らしかった。天皇陛下も眺めた所だ。逆光で写真は残念。



千々石海岸

つづいて唐比の峠、中山名の峠、飯盛山の峠と苦しみながら登る。中山名の峠に登る途中、長崎ナンバーの普通車で運転の女性から、“頑張って”と声をかけられ、少し行った広い所で停まって待っていてくれて、あめ玉とチョコレートをいただく。少し話しをして別れる。こんなのがうれしい。飯盛山の峠に登る所では、疲れてきつくなり押して登ることにする。過度な無理はやめようということ。頂上のトンネルまで約500m押して登る。2つのトンネル

を抜けて、気持ちよく下っていった。

矢上大橋を渡り、ペンギン水族館へ寄る。3種類のペンギンがおり、丁度遊泳の光景を見ることができた。小さな水族館だが、いろんな種類のカラフルな魚たちもたくさん見られた。タイでは〈神の使い〉と言われている〈プラー・ブック〉という黒い大きな魚が数匹悠々と泳いでいた。

ここから、長崎市へは、日見峠を越えなければならない。大きなU字カーブがあり、少しゆるやかな上りなのでこいで登る。新日見トンネルはバイパスだが、大きな歩道・自転車道があり安心して走れた。トンネルを抜けるともう下りだけなので、今日も頑張ったという気持ちになる。

長崎市に入り、「シーボルト記念館」を見学。日本の西洋医学の出発点になった人だ。高野長英等多くの立派な日本人医師を輩出している。つづいて、〈長崎くんち〉の原点「諏訪神社」に参拝。大鳥居が5つもあった。石段がつづき、最も高い石段を登り本殿に至る。石段の両側には10月7日から10日まで行なわれる〈長崎くんち〉の観覧席の台が組み立てられつつあった。盛大さが想像できる。本殿横に御神輿所があり、神輿が5体収めてあった。



シーボルト記念館

「長崎えびすYH」に着き、荷物をすべて取り外し部屋に入る。3人部屋だ。すぐに入浴、さっぱりする。それから、宿のおばさんに教えてもらって、電車に乗り中華街へ行く。「広楽園」という店で長崎名物〈特製皿うどん〉を食べる。うまい。

その後、電車を乗り換えて「グラバー園」へ向かう。エレベータで楽に登る。夜のグラバー園は神秘的だ。夜景も素晴らしくきれい。妻に見せてやりたい。北海道から来たというおばさん三人組と話しながら歩く。

21時宿に帰り、寝具をセットし同室者と旅の話、22時30分就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時20分 到着 16時20分

走行距離 70.87 km 走行時間 4時間27分04秒

平均時速 15.9 km/h 最高速度 57.3 km/h

積算距離 2140.81 km

第32日 9月30日(土) 晴

長崎市～野母崎～長崎市

長崎市 [長崎えびすYH]

ぐっすり眠って、目覚めたのは6時30分。よほど疲れがたまっていたのだろうか。市内観光しようか、予定通り野母崎へ行こうかと迷ったが、やはり野母崎へ行くことにする。早朝、2日分の記録を書いて軽装で10時出発する。



野母崎

長崎港に〇〇・プリンス号(あすか)停泊中。オレンジ坂を左手に見て、国道499号線をひたすら走り続ける。柳田町でサイクリングロードに入ろうと思っていたが、蛇行はなはだしく時間もかかりそうなので、引き続き499号線を走る。

三和町からは、長い上り坂でややギヤを落として、気持ちを楽しんで登る。右手に軍艦島(高島)が見えてくる。戦前、炭坑があって大きなビルは労働者の住居になっていたが、まもなく閉山し、今はその建物

はマンションになっている。島全体が本当に軍艦のようだ。坂を下って行くと小さな島のいくつか心が和ませられる。

野母崎物産センターに着き話を聞くと、この辺り一体が野母崎だという。横島も含めて巡ってみることにする。横島の大きなぎには驚いた。人の足の太さだ。東南アジアに棲息し、ここが北限だそうだ。

横島港に停泊中のライトのついた船はイワシ漁の船だ。3隻一組で、1隻が中央で光を照らし、1隻が網を垂らして光を中心に円状に一周してイワシを囲み、網をしぼりながら引き上げて、獲れたイワシをもう1隻の船に入れるという網漁の仕組みだ。物産センターのおばさん、親切に見取図を書いて解説してくれた。お礼に<びわアイス>を食べる。ここの波止では、多くの釣り人が釣り糸を垂れていた。チヌ・アジなどが釣れるそうだ。丁度、私が見ていた時に、若い夫婦が30cm位の大きな魚を釣り上げた。写真撮影。野母港では、イセエビ漁の網の手入れをしている漁師さんに話を聞く。

野母崎は全体によい風景だった。途中、やや急な上りもあったが、今日は荷物を積んでいないので楽に登



大物が釣れる



長崎港

れた。いつもこれ位ならいいのだが。

長崎市内にもどり、大波止付近の交差点で中学生に声をかけられる。土井ヶ首中三年生の生徒で夏季学習の帰りだという。自転車日本一周に興味を持っているいろいろ質問をする。こちらからも学習や進路のことなど聞いてみる。勉学に余念がないのがさすがらしい。

夜は、稲佐山に夜景を見に行く。ロープウェイで登っていくと、街一面に広い夜景が輝いてくる。頂上で美しい夜景をしばし眺める。女神大橋も浮かび上がってきれいだ。

宿に帰り、夕食。ご主人手作りの梅焼酎をいただく。神戸大大学院の女学生と話す。理学部化学科で、フランスに興味がありパリでホームステイを2週間したとのこと。フランスに支店のある会社に就職したいそうだ。話を聞いて、私はいつかフランスを走りたいと思った。荷物を整理して11時30分就寝。



長崎の夜景・稲佐山より

※ 今日のデータ 出発 10時00分 到着 16時30分
走行距離 65.76 km 走行時間 3時間37分38秒
平均時速 18.1 km/h 最高速度 53.1 km/h
積算距離 2206.57 km

第33日 10月1日(日) 雨後曇

長崎市～佐世保市小佐々町 小佐々町[小佐々町武道館・玄関] テント泊
6時起床。洗面、洗濯物を取り入れ、すぐに荷造りをし自転車に取り付ける。朝食をとり、氷水をボトルに入れてもらう。

朝から小雨、降ったり止んだりで自転車旅行で最もいやな雨だ。荷物にレインカバーを取り付け、レインコート上衣を着て出発する。国道206号線、出発後直ぐに降り出してきて2 km地点で停まって、フロントバッグにもレインカバーを取り付け、レインコート下衣もはいて再出発する。長崎の舗装道路は全て小さい凹凸状態で、自転車ではとても走りにくい。6～7 kmずっと緩やかな上りが続く。



大村湾・カキの養殖

時津に出て、大村湾の西沿いをひたすら北上する。フロントバッグにレインカバーを取り付けているため、地図が見られず、今どの辺りを走っているのかよくわからない。中小のアップダウンを走り琴海町へ。大村湾にも、大小さまざまな形の島やイカダもあり、変化に富んで楽しい。イカダや白黒の球は何か聞いてみると、カキの養殖だそうだ。思ったより海はきれいだった。

西彼で、「生長の家」の総本山があった。田中節子先生の信仰する所だ。高校・大学も併設しているのだろうか。つづいて、オランダ村の閉鎖になった跡があった。建物は立派なものが残っており、もったいない気がする。

昼前、西海橋に着き、西海橋を渡る。平行して高速道の走る新西海橋は昨年2月

に完成したようだ。どちらの橋もきれいな橋だ。瀬戸の流れの渦を見たかったが、丁度流れの止まっている時で、豪快な潮流は見る事ができなかった。ここで、伊万里市から来たというおばさんに質問された。“元気をもらいました。”と言って、お茶1本をいただく。“”ありがとうございます。”この食堂で〈長崎チャンポン〉の昼食をとる。



西海橋

西海パールラインは自転車通行禁止で、国道202号線の峠越えをする。ギヤを落とし、楽に登るように努める。早岐を過ぎ、国道35号線を通り佐世保市に入る。駅前のスーパーで洗剤を買う。さらに、後部点滅灯購入取り付けのため自転車店に寄る。実は、今朝点滅灯が取り付け元から折れて無くなっているのに気づいたのだ。この自転車屋さん、親身になって対応してくださった。

まもなく、国道35号線から別れ、県道11号線に入る。すぐに米軍佐世保基地があり、玄関から少しだけ内を見ることができた。隣に三菱重工(株)三菱造船があり、ドックの様子や船を造っているところをよく見ることができた。



三菱重工(株)三菱造船

佐々町に入り、後ろから車で来た中年のおじさんに公園に泊まるのかと聞かれる。公園の時もあるが、宿かキャンプ場・道の駅が殆んどだと応える。興味深そうに聞いておられる。小

佐々町役場・中央運動公園に来て、海洋センターの職員さんにテント泊の依頼をすると、屋根のある武道館の玄関はどうか、と言われる。いい所が見つかった。夕食は地元のスーパーで購入、今日はテント内で食事。ゆっくりと記録をつけ、明日の予定を立てる。22時20分就寝。

※ 今日のデータ 出発 7時33分 到着 17時10分

走行距離 93.70 km 走行時間 5時間28分46秒

平均時速 17.1 km/h 最高速度 ? km/h

積算距離 2300.27 km

第34日 10月2日(月) 晴時々曇

小佐々町～伊万里市



朝食をいただいた「清裕」の奥様

伊万里市〔伊万里市総合運動公園〕テント泊
6時起床。昨日購入の牛乳とバナナ3本を食べ、洗面。荷物を片付けていると、そばにあるレストラン「清裕」の奥様が、“朝食用弁当を作りました。食べてください。”と持って来られた。心温まる思いが全身から湧いてきて、丁重にお礼を言っていた。おむすび2こ、ゆで卵1こ、豚肉の煮付け、出発前に半分いただいたがとてもおいしかった。

テントを収納し出発の準備をしていると、前のコミュニティーセンター・シルバー人材センター

小佐々出張所の皆さんが、仕事に集まって来られた。私もシルバー人材センター所属という身分を伝え、少し話しをする。今日は、草刈りや樹木の剪定をするとのこと。いつも7時過ぎに集まって来られるそうだ。ゴミの処分をお願いすると、気持ちよく受け取ってくれた。励ましの言葉をいただく。出発準備ができたので、明日着るユニホーム・靴下・小タオルを水洗いし、荷物にくくりつける。

出発に先立ち、「清裕」の奥様にお礼を言い、住所・氏名を書いてもらって、写真を撮らせていただく。今日の見学のメインは九十九島の景色だ。国道18号線は、中小のアップダウンの連続で登ったと思ったら下り、下ったと思ったら上りで、相当な手応えだった。急坂はギヤを最下段に落として、上り切って行った。

途中、平原辺りで永田水産の漁師さん3人が船で仕事をしてられる。写真を撮る。聞いてみるとタイの養殖のための作業とのこと。ただ、勝手に写真を撮ると叱られる。

たしかに、撮られた方からすると無断で写真を撮られると嫌なものだろう。大反省する。大抵、身分を言って許可を得てから撮らせてもらっていたが、うかつだった。この時、地元の人と思われる中年の女性の方が、追いかけて来られ、“日本一周している姿を見ました。これを食べて、飲んで、元気に実行してください。”と言って、お茶2ℓ、黒糖かりんとうとキャラメルコーンをくださる。小佐々町の人はみんな温かい人なのだなと思う。ありがとうございました。



長串山より九十九島の眺望



平戸大橋

道の電柱には、つぎつぎと「〇〇水産」と書いた表示板がかかっている。漁業が盛んなことが感じ取れる。お店で聞くと、30社位は水産業の事業所があるそうで、内容は、タイ、ハマチなどの養殖とイワシ、アジ、サバなどの近海漁だそうだ。

さらに、アップダウンを越えて九十九島の展望所「長串山公園」入口に至る。展望所まで登ることにする。国道18号線から右へ急坂を約10分強、自転車を押して登る。立派な美しい公園で、管理が行き届いており、今日も整備作業をし

ておられた。景色は絶景、苦しかったが登って来た甲斐があった。国道18号線を通っただけではこの景色は見られない。

平戸大橋へは、また大きな峠を2つ越えなければならなかった。苦しかったが自転車から降りずに越えて行った。平戸大橋を見て、国道204号線に入った所で平戸島を見ると平戸城が見えた。平戸口漁港を見学。

ここから、また中小のアップダウンを走り、松浦市に向かう。松浦湾を見ながら、元寇の頃の松浦党の活躍を偲ぶ。松浦市で昼食をとる。「松浦〇〇ホテル」、



平戸漁港

感じのいいリッチな店で、店員さんも気持ちいい。ランチ定食A（600円）と生ビールを注文。魚のスープがとても旨かった。刺身も。食後のコーヒーもついていた。安い。ボトルに水をいただく。



元寇・松浦党の碑

ここからまた、大小のアップダウンを走り伊万里市に入る。伊万里駅の観光協会で地図をもらい説明を聞いて、伊万里総合運動公園へ向かう。公園管理事務所へ行き、名刺で身分を言ってキャンプのお願いをする。気持ちよく、今晚は使っていない野球場の通用口がよいのでは、ということでそこにテント泊を決める。陸連

公認の立派な陸上競技場があるのには驚いた。

荷物に取り付けたユニホームは乾いていた。夜、NBCラジオ佐賀の岩永さんよりTELあり。明日、10時40分から実況インタビュー、唐津市役所で待つとのこと。同じく、妹幸子からメール。福岡の弥生さんにTEL、明日夕方行く旨を連絡する。カンテラの電池を換えて、すごく明るくなった。記録を書き、明日のコースを調べて就寝する。

※ 今日のデータ 出発 7時48分 到着 17時00分
 走行距離 79.62 km 走行時間 4時間51分33秒
 平均時速 16.3 km/h 最高速度 ? km/h
 積算距離 2379.89 km

第35日 10月3日（火） 晴後曇

伊万里市～福岡市

福岡市[潤・弥生さんの新居]

今日は、全体としてはこれまでにないフラットな道で走り易かったが、北東の風が強く進むのに相当苦しんだ。

島田施設長さんが、7時過ぎにわざわざゲートを開けて来てくださった。心から感謝。

出発してゆるやかな上りであるが、小麦原あたりからは殆んど平坦であった。この上りの途中、前輪が直径5cmの石を踏み、自転車は一瞬大きくバランスを崩し車道中央に倒れかかる。後ろから来ていた乗用車急ブレーキをかけて止まる。車の多いスピードのある所だったらと背筋がぞっとする。運転手さんに頭を下げる。



吉野果樹園ご夫妻



NBCラジオ佐賀の実況インタビュー

南波多町で吉野果樹園という梨の直売所があったので、潤家族にお土産をと思い寄る。試食の味は何とも言えない。甘からず酸いなくすっきりした味わいがあり、とてもおいしかった。3個買う。立派な梨で、1個200円とはすごく安い。ご夫婦がとてもいい方で、これも持って行きなさいと、ぶどうを1パックくださった。“日本一周頑張っね”と励ましもいただいて。

予定通り10時20分に唐津市役所に到着する。NBCラジオ佐賀の岩永さやかさ

んともう一人寺尾瞳さんが待っていた。親しく再会を喜び合い、10時40分から



唐津くんち・曳山

実況インタビューを受ける。こんなのは多分生まれて初めてだと思う。意外に落ち着いていて、質問にははきはきと答えたつもりだ。アナウンサーはさすがに話の仕方がうまいと思った。この後、唐津新聞の記者がラジオを聞きつけて早速インタビューにやってきた。田元いずみさんという。コースや日程、旅行の動機などいろいろと質問され、ありのままを答えた。印象に残ったことでは、人々との出会い、美しい自然を中心に話した。

その後、唐津くんちの曳山を見て、唐津神社にお

参りする。ここで12時となり、予定外の遅れである。何とか先に進んでから昼食にしようと、先を急ぐ。虹の松原を走り、〇〇橋を渡る。このあたりから、強い向かい風となり、10 km/h ~ 15 km/h でしか走れない。腹は減るし、レストランはないし、なかなか進まないし、少々切なくなる。13時頃になって、福吉の手前に食堂があったので入る。景色のよい所であった。天刺騰と奮発する。



虹の松原

ここから今宿、そして元寇防塁跡ま

で終始強風の中、フラットな道を進んで行く。元寇防塁跡で、この地の旅行好きの方から色々親切に説明をいただく。ありがたく感謝しながらも、以外に時間を取っ



元寇防塁跡

てしまう。ここから福岡市内の人手の多い中、信号も多く潤・弥生さん宅まで行くのに大いに時間がかかってしまう。途中、那珂川町の中原まで行くというと、親切な自転車の仕事帰りのおじさんが、行き方を教えてくれて、数km一緒に走ってくれる。17時40分頃ライトを点灯する。

18時00分、道善交差点に潤が迎えに来てくれて、ここから一緒に走り、18時20分ようやく彼等の新居に到着する。家が広いのにびっくり。孫の七津葵はすぐにとんできたが、みなみはげげんそう。すぐに入浴、さっぱりして、ビールを飲んで食事。すっかり落ち着いて七津葵・みなみちゃんと遊ぶ。潤もこの日は休みをとっていた。

洗濯を弥生さんにしてもらおう。ずーと二人と一緒に遊

んでいて、記録など書く時間はなかった。23時頃就寝。ぐっすり眠る。

※ 今日のデータ 出発 7時30分 到着 18時20分

走行距離 92.27 km 走行時間 5時間42分58秒

平均時速 16.1 km/h 最高速度 ? km/h

積算距離 2472.16 km

第36日 10月4日(水)

福岡市

福岡市 [潤・弥生宅]

今日は一日中、孫の七津葵・みなみと遊んでいた。

起床8時。朝食準備のため、弥生さんは朝早くから起きていた。みんなと一緒に玄米のごはん、みそ汁、納豆等の朝食をいただく。



潤・弥生さん家族と

孫との遊びは部屋の中でじゃれあったり、七津葵とは外に出て散歩(畑の見学)・マンション2階の廊下で自転車乗り、みなみとはだっこして歩いたり・外をながめたり。七津葵とはさらに首輪投げ上げ・すごろく・トランプの記号あわせ・色合わせなどで遊ぶ。孫たちは大喜び。私も大いに楽しんだ。

昼食後少し休んで再び遊ぶ。遊び始めるとずっとしたがる。14

時~15時30分昼寝したが、あっという間に一日が経っていた。弥生さんが一人の時は本当に相手をするのが大変だろうと思う。

19時頃夕食。20時過ぎ、二人をお風呂に入れる。七津葵は慣れたものだが、みなみはさすがに髪を洗って湯で流すとき泣き出した。

22時過ぎ、就寝準備し就寝する。

※ 今日のデータ 起床 8時00分 就寝 22時30分

第37日 10月5日(木) 曇

福岡市~戸畑市

戸畑市 [藤之家旅館]

7時30分、潤・弥生さん家族の見送りを受けて出発する。今日のコースは、一日中北東の風・強風で、ずっと苦しみながら進んだ。

福岡市内は、博多南から新幹線下を北上、高木町で右折、都市高速「月隈ランプ」へ。ここまでは、通勤通学の人々が多く、みんな急いでいるような光景に見えた。榎田町まで高速道下を走り、ここから国道3号線バイパスを進む。このあたりはまだ向かい風はそんなに感じない。香椎宮を見たいと思ったが、国道3号線から右折1kmと聞いて止めにする。香椎を過ぎて国道495号線に入る。順調に休みなく進み和白を過ぎて古賀市、福間町、そして2時間で宮地嶽神社に到着する。

宮地嶽神社には、高い石段、いくつかの石の大鳥居があり、本殿には大きなしめ縄があり圧巻である。歴史の古い古刹神社という感じで、何となく重みがあった。

入り口のお店で名物<松ヶ枝餅>を食べた。おいしかった。



宮地嶽神社

ここから真直ぐに海岸に出て、宮地浜海水浴場を見る。海はよく風が吹いていたが、青く澄んできれいだった。

ここからは、ずっと海岸線を景色を見ながら走ろうと思っており、495号線を北上し、県道502号線に入る。これが超向かい風の強風で、10km/h~12km/hでないと進めない。懸命にこいで牛歩のごとく進む。宗像市で民族資料館を見る。玄界灘の海の漁とのかかわりの深い所だと思った。昔の人々の海に生きる姿を見ることができた。

ここから先も強烈な向かい風で、さつき松原の中を走る時だけは、少し楽だった。松原の途中、海の見える所で休憩、昼食にする。弥生さんの作ってくれた弁当を開け、心のメッセージを読んでありがたい気持ちでいただく。

海は大荒れである。この高い波の中をサーフィンをする二人の男の人を見つける。興味があり、立って波に乗るところを写真に撮ろうと待ち構えていたが、いっこうに波に乗れない。まもなく、陸に上がり、板を抱えてこちらに来たので声をかけ、挨拶をして、少し話を聞いたり、会話をする。“今日の風は強すぎて、よい波ではない。今日はダメだ。普通よい時は、3m位の高さの曲線のような波になる。”ということだ。福岡から来たそうだ。写真を撮らせてもらう。



玄界灘のサーフィン

この後も、津波崎を回るまで大変な向かい風だった。横風の際は、思わず倒れそうになることもあった。

本日キャンプ予定の[しょうぶ谷キャンプ場]にTELすると、若松市まで行き生涯学習センターの許可をもらうこと、それから坂を登って車で10分という。どうしようかと迷っていたが、天気の方も強風で空も雲行きが悪くなってきて、雨の心配も出てきたので、宿の宿泊に決める。若松市まで行くことにする。途中、見学や休憩が少なかったのと、宮地嶽神社まで早く進んでいたのも、割合早く16時前頃若松市に到着した。若松駅で聞くと、若松市にはホテルは一つしかない、渡船で渡り戸畑市へ行った方がよい、あちらはビジネスホテルもたくさんある、渡船はすぐそこ、船はひっきりなしに出ている、戸畑駅もすぐだ、ということだ。



若松港・後は若戸大橋

そうすることにして、渡船場に走る。親切な高校生に案内されて、16時38分発の渡船に乗る。乗船時間はわずか5分だった。戸畑駅に向かう途中、ビジネスホテル[藤之家旅館]というのがあった。一応、戸畑駅に行き観光協会に紹介してもらおうと思いい、駅で聞くと観光協会も宿の斡旋をする所もないと言われ、ビジネスホテルを電話帳で探す。直接電話で当たってみると、二軒目で[藤之家旅館]が安くて対応がよかったので、ここに決める。

行って見ると、奥様はきさくな方で、家族的な雰囲気のホテルであった。ご主人はスイムアスロンをされて、夕やけマラソンにも毎年出でおられるとのこと。意気

投合して、しばしマラソン談義に花が咲いた。

入浴後、食堂を紹介してもらって、〈いわし煮付定食〉を食べる。700円だったが充実した内容だった。ママさんも気持ちのよい方で、ごはんもおかわりをした。

食事後、教えていただいた近くのコインランドリーで洗濯・乾燥をし、21時を過ぎる。宿に帰り一日の記録をつけて、22時30分になったので就寝する。

※ 今日のデータ 出発 7時30分 到着 17時00分

走行距離 88.94 km 走行時間 5時間25分18秒

平均時速 16.4 km/h 最高速度 ? km/h

積算距離 2561.10 km

第38日 10月6日(金) 曇(強風)

戸畑市~下関市特牛 下関市特牛[肥中オートキャンプ場]テント泊

6時起床。少し記録をつけて出発準備を始める。水筒にきれいな冷水をいただく。出発時、玄関でご主人とツーショット。



門司・日明フェリー発着所

戸畑港から海岸を道なりに日明フェリー発着所へ向かう。どこかで間違えて八幡製鉄戸畑工場正門に至る。この正門の守衛さん、まごまごしている私を見つけて呼ばれ、ていねいに方向を教えてくれる。その通りに走りフェリー待合所に着く。フェリーは20分おきにあり、8時20分発に乗る。門司~下関彦島の乗船時間は約15分である。利用者は多いのだと思うが、今日はガラガラだった。

彦島港から少し走り下関漁港を見学する。相当な水揚げがあるそうだが、この

時間にはもう競りも終わって片付けをしていた。ここから、下関駅をめあてに懸命に走り191号線に入る。向かい風がすごい。昨日以上だ。昨日は進行方向によって追い風のこともあったが、今日はひたすら北上の道、60kmずっと向かい風に向かって走り続けた。こんな経験もそんなにないものと思う。途中、クラモトメガネがあったので、しめ具合を調整してもらう。

川棚温泉付近で、地元産の海産物店があり、よさそうな店だったので寄って、蒲鉾を1本食べて見る。とてもおいしい。ここで、明日お世話になる大学時代の友人岡野氏に下関産「辛子めんたい」を購入する。冷蔵材を入れてもらう。

今日は人との出会いはあまりなく、ひたすら走り続けた。アップダウンもあまりなく、強風だけに苦しめられた。犬鳴岬の「〇〇レストラン」で昼食。豚汁定食。今日もおかわりをした。

土井が浜の手前で、下関に行く時にすれちがったという地域の漁業者が、追い抜



下関漁港

いて待っていてくれて、話しかけて来られる。自転車日本一周について興味深く聞かれ、励ましてくれる。

土井が浜で人類学ミュージアムを見学する。土井が浜弥生人のルーツがわかった。発掘現場の再現ドームは迫力があつた。

特牛のスーパーで食料を購入。肥中オートキャンプ場にテント泊する。キャンプ場は開設期を過ぎており、水道・トイレ等止めてあつたが、すぐそばの市民グラウンドの水道・トイレが使えたので助かつた。

強風でテントが飛ばされそう。荷物と自分の重みで持ちこたえられるだろう。テント内で記録をつけ、19時過ぎ横になる

夜中、強風が吹き荒れ、テントもたびたび揺さぶられる。眠ったり、目覚めたりでやや睡眠不足。

※ 今日のデータ 出発 7時25分 到着 17時00分
走行距離 64.43 km 走行時間 4時間14分00秒
平均時速 15.2 km/h 最高速度 38.4 km/h
積算距離 2625.53 km

第39日 10月7日(土) 曇

下関市特牛～萩市

萩市 [岡野正義氏宅]

6時起床。朝食、牛乳とチョコレートパン3個。釣人3人がやってくる。親しく会話する。ふぐを釣るそう。荷物を手際よく自転車に取り付け、出発する。



角島大橋

角島へ向かう。ここは、かつて橋が架かる前の夕やけマラソンのコースで、大橋手前まで上りであるが、こんなに急で長かつたかなと思う。自転車で登るより、走って登つたほうが楽なのだろう。相変わらず、向かい風が強くなかなか進まない。

峠を越えて、ゆるやかに下っていくと角島大橋が見えてきた。きれいだ。白波が立ち、太陽の光りに輝いて絵のようだ。朝早いからだろう人気は殆んどない。観光案内所もまだ開いてなかつた。

島戸浦の漁港には、例の赤い旗を立てて漁船がいくつも停泊してゐた。港には人が出ていて一日の活動が始まっていた。ここをUターンして191号線との合流点に向かう。久々に追い風に乗って速度を上げて下つていった。

阿川からは、横風や向かい風だつた。昨日ほどではないが、強風に悩まされながら長門市へ向かつた。金山岬までの上りは大分きつかつた。岬からは油谷湾、その向こうにいつか妻と行った風車の立つ油谷半島が大きく見えた。粟野を過ぎて一つ峠を越えると、あとはずっと平坦だつた。

伊上の辺りで急に雲行きが悪くなり、空は全面灰色になり、雨がぼつりぼつり降り始める。空は西の方も黒いので、“これは雨になるな” 荷物は濡れないうちに早めにレインカバーをセットしておいた方がよいと思ひ、屋根のあるバス停でセットする。合羽も上だけ着て進んでいると、まもなく空が明るくなつてくる。山陰の天気は



変わり易いのだなと思う。しばらくそのまま合羽を着て走ったが、やはり天気は回復してきた。無駄な手間を取ってしまったが、雨になるよりよほどよかったと思う。沿道は本格的な秋だ。コスモスが咲き、柿の実がいっぱいに成っており、田んぼでは稲刈りの風景が見られる。長門市で県道56号線に入り、仙崎を回ることにする。仙崎で蒲鉾大感謝祭に出合った。おもしろそうなので入ってみると、地元で製造したいろいろな蒲鉾が大安売りで販売されていた。多くの人で賑わっており、試食もいろいろできる。食べて見ると、とてもおいしい。幾種類もいただいた。最終日お世話になる斎藤正美先生に玄海（特選）と小留（10種入っている）という蒲鉾を発送する。岡野氏には小留を買う。シーサイトスクエアを通り、再び国道191号線にもどる。



仙崎・蒲鉾大感謝祭

田松陰他明治維新の幾多の偉人を育てた人だということもわかった。あらためて村田清風の偉大さにふれ、来てよかったと思った。

海鮮村長門で昼食。14時ここを出発。まだ時間が早いので香月美術館に寄る。三隅町出身の画家で、家族を大切にした人だ。家族に宛てた絵手紙の数々がとても印象に残った。また、故郷をこよなく愛した人で三隅町を私の地球と呼んでいる。

ここからいよいよ難関の鎖峠だ。上りの距離と標高を考えるとできればずっとこいで登りたいが、難しいときは無理をせずに歩こうと心に決めて登り始める。はじめの1km10分経過、それから急坂で最初のトンネルが見えた時、あのトンネルを出るまでと思い頑張る。トンネルを過ぎると少し



指月公園

傾斜が緩やかになり、これは頑張ってみようと思い、淡々とこいで登る。2kmを過ぎてやはり緩やかな坂なので、ここまで来たら絶対最後まで登り切ると心に決めてこぎ続ける。延々と上りが続いたが、上り4.17kmを30分で登り切り鎖峠に到達する。思わずガッツポーズで写真を撮る。



鎖峠



岡野正義氏ご夫妻と

萩市役所に到着し岡野氏に電話する。自宅近くで待っていてくれる。大歓迎を受ける。入浴はゆっくりと体を伸ばして疲れを取る。そして、近くの料理屋へ。あじのたたき、ぼてこの唐揚げ、生ビールに熱燗のお酒、積もる話で旧交を温め、おいしくよく飲んだ。

家に帰り、まもなく<日本女性会議 in 下関>に出席されていた奥様帰って来られ、また三人で歓談する。夫思いの自立された奥様、とても明るい。

10時30分頃、2階にて就寝する。

※ 今日のデータ 出発 7時35分 到着 16時40分
 走行距離 70.13 km 走行時間 4時間31分58秒
 平均時速 15.4 km/h 最高速度 53.1 km/h
 積算距離 2695.66 km

第40日 10月8日(日) 晴

萩市～萩市田万川温泉

萩市 [田万川温泉キャンプ場] テント泊

6時過ぎ起床。コンタクトレンズ洗浄。携帯とデジカメ電池充電。7時45分まで昨日の記録をつける。8時過ぎ朝食。奥様手作りのかき餅入り栗ごはん・ちりめん大根・しじみの味噌汁、おいしい。おかわりをする。

9時30分から岡野氏の案内で萩市博物館見学、金閣寺展をやっており、また、着物を着ようというイベントもあり、大変華やかで多くの美術品や萩の歴史にも触れることができた。

つづいて、江戸時代の町並みを通り、木戸孝允の旧邸を見学。堀の発掘調査も行なわれていた。人力車の車夫と和服姿の女性を撮らせてもらう。何とこの車夫さんは、かつて歩いて日本一周をされた人で、萩が気に入って萩の興隆のために働いているという人だった。



萩の町並み

萩焼祭りのアーケード街に行くと、大そうな人出で、屋根にはきれいな垂れ幕や飾りで華やかに人々を歓迎していた。奥様と萩元気の会の方々、晋作弁当を売っておられた。一つ昼食弁当にいただく。

11時30分、お世話になった岡野氏と別れて出発。萩シーマートに寄ると、<萩魚まつり>で大賑わい。ここで、テーブルのあるイスに腰掛けて、晋作弁当をいただく。素晴らしい内容の弁当だった。お品書きを見ながら、一つ一つしっかり味わっていた。



晋作弁当

今日は風も弱まり、海の波も大分おだやかになっていた。向かい風ではあったが、強風ではなく、気持ちよく走れた。時には、追い風にもなり本当にあ



阿武の海岸・サーフィン大会

りがたかった。

奈古を過ぎた阿武町の海岸でサーフィンの大会が行なわれていた。にぎやかな雰囲気だったので寄ってみると、アナウンス係の人が特別ゲストとしてマイクを向けてくれる。日本一周ということで、全員から拍手をいただく。焼き鳥の串までいただいて、大人気だった。気をつけて行くように励まされる。競技者は結構波に乗ってすべっていた。写真を撮る。海は透きとおってとてもきれいだった。

そして、今日一番の難関、全長1500mの大刈トンネルだ。うまく走り切れるか心配だったが、車はやや少なく、後ろから来る車は大きく右に寄って私をよけて追い抜いて行ってくれた。やや緊張していたが、快走できた。

須佐を過ぎて、16時田万川温泉「憩いの湯」に到着。きれいに整備されたキャンプ場が併設されている。

7～8張りのテントがすでに張っており、それぞれ数名ずつキャンプを楽しんでいた。気持ちよくテントを設営する。温泉に入浴、夕食後大広間で記録をつけ、NHK大河ドラマ「功名が辻」を見る。21時テントに帰り、記録を完成し就寝する。



田万川温泉・憩いの湯

※ 今日のデータ	出発	11時30分	到着	16時05分
	走行距離	43.54 km	走行時間	2時間27分12秒
	平均時速	17.7 km/h	最高速度	44.9 km/h
	積算距離	2739.20 km		

第41日 10月9日(月) 晴

萩市田万川温泉～島根県柿木村

島根県柿木村 [斎藤正美先生宅]

天気快晴、風も殆んどなく絶好のサイクリング日和になった。キャンプ中の家族・子どもたちがやってくる。色々聞いてくる。できるだけ明るく親しみを持って応え、こちらからも問いかける。励ましをもらいながら出発する。

いきなり仏峠・人形トンネルと、いやな上り・トンネルがあったが、頑張り注意深く快走した。人形トンネルを下るとずっと平坦で、時々止まって海岸を眺めた。



柿本神社

ふれあい広場PAで小休憩、少し手前の商店で買ったパンと牛乳で朝食をする。海岸は遠浅で海は大きな波になって押し寄せ、最後は白波となって岸に打ちつけていた。ここから三星ヶ浜・持石海岸で、遠浅の豪快な波が延々と続いていた。

益田市街に入る所で右折、県道256号線を通って柿本神社に向かう。途中、幡竜湖や右手

の丘に万葉公園があるが、以前訪れているのでパスする。ウォーキング中の主婦に行き方を聞くと、ていねいに教えてくれて、励ましも受ける。

柿本神社の入口に自転車を置き、石段を登り本殿にお参りする。本殿のすぐそばに、人麻呂さんの坐像がある。とてもよい顔をしておられる。社務所で朱印帳に記載していただく。私は山口の岩国から来たと言うと、宮司の奥様とおぼしき方から、柿本人麻呂・柿本神社は山口とゆかりが深いのだと、大内文化と京文化（柿本人麻呂は京文化）の親しいことからお話をうかがう。

ここからは、国道9号線に入り日原に向かって南下する。道は殆んど平坦で、高津川に沿って気持ちよく走る。石見横田辺りで、関係者（由宇支所・朝見さん・田中丈夫さん）と妻美智子に明日16時～17時頃到着するだろうと連絡する。高津川にはダムがなく、アユがたくさん上って来るそうでアユ釣りの釣人の風景がよく見られた。声をかけて撮らせていただく。



高津川のアユ釣り

正午を大分過ぎていたが道の駅「シルクウェイにちはら」で〈御麺屋〉の津ガニラーメンを食べようと、そこまで頑張っって走る。到着して、〈御麺屋〉を探すが、ない。聞いてみると、その店はなくなったということ。大変残念だったが、別に〈日本一のうどん・そばというラーメン屋〉があったので、そこで角煮ラーメンを注文する。久しぶりのラーメン、おいしかった。ここで少しゆっくりする。



日原天文台モニュメント

日原で天文台モニュメントをバックに写真撮影し、国道187号線に入る。ここからは、所々急坂やトンネルやカーブのある山間の道になるが、変化があって楽しい。法師淵で斎藤先生から電話がある。道の駅「かきのきむら」で待っているとのこと。

道の駅「かきのきむら」に至り、先生を探すが見当たらない。やむなく右折して県道3号線に入り、福川川沿いに走り16時斎藤先生宅に到着する。



斎藤正美先生ご夫妻

奥様の出迎えを受ける。私を迎えに行った先生とはすれ違いになったようで、まもなく戻って来られた。挨拶を交わし座敷に上がり、お茶をよばれながら歓迎と感謝の会話がはずむ。少しくつろぐ内、柿木温泉に入ろうということで、車で「はとの湯荘」に行く。茶色の本当に温泉という感じのすべすべした湯だ。全身を洗ってさっぱりし、十分につかって温まる。

家に帰り、畑・田んぼなど案内・説明をしてもらう。その後夕食。自宅の畑で作られた野菜・米・粟などの自然

食で人の温もりのあるおいしい料理だ。栗ごはん・なすの煮物など。それに、ビールとお刺身。おいしく、たくさんいただく。食後は、先生の教職実践の資料やパソコン映像を見せていただく。頭の下がる教育実践だ。人と情熱を改めて感ずる。22時30分就寝。ぐっすり眠る。

※ 今日のデータ 出発 8時30分 到着 16時00分
走行距離 61.52 km 走行時間 3時間31分05秒
平均時速 17.4 km/h 最高速度 ? km/h
積算距離 2800.72 km

第42日 10月10日(火) 晴

島根県柿木村～岩国市由宇町

由宇町由宇総合支所 [自宅]

朝、少し肌寒い。柿木村は広島県廿日市と比べて5°位気温が低いとのこと。朝食をいただき、出発準備をする。お土産にお米・栗をいただき、昼弁当も作ってくださる。大感謝。仏様にお参りして、出発。温泉口まで見送ってくださる。スタート時は寒いのでジャージ上下を着て出発したが、快晴で温泉口ではジャージの下は脱いだ。脱いでも寒くなく、快調に走れる。途中、「間欠泉」の木部谷温泉があったが、今日は16時到着予定なのでパスする。

七日市に入る所で、少し急坂があったが、気持ちよく登る。七日市を過ぎた所のガソリンスタンドで上着も取る。

六日市は町中を通り、町を見てみる。昔の趣がたくさん残っていて懐かしい。六日市役場を過ぎ、「うららの湯」に立ち寄る。ここは由宇自転車クラブ[CCC]が山口県一周をした時の最終日の出発点だ。おばさんに親しく声をかけられる。ここで、由宇支所地域振興課と朝見さんに電話をする。“到着は16時過ぎの予定”。

六日市から島根県と山口県の県境の峠傍示ヶ峠までは緩やかな上りで、あっという間に峠が見えてきた。峠は標高374m、Vサインで写真撮影。ここから風を切って曲がった下り坂を一気に下り、道の駅「ピュアラインにしき」に到着する。ここで、少し早いですが齊藤先生奥様の作ってくださった弁当をいただき、自転車日本一周の表示を見て、色々聞



傍示ヶ峠



錦川の清流

いてこられるご夫婦あり。

ここから錦橋まで蛇行したやや下りの長い道を淡々と走る。変化に富んだ、錦川清流線の見える美しい錦川沿いを下って行く。所々で写真を撮る。南河内で国道187号線から近道の石橋を渡り、国道2号線に入る。

土生から入野の間で、山登りから下山中の小学生に出会う。“日本一周、すごい”という声が聞こえる。一緒に写真を撮る。“夢を大切に”と話す。



山宇温泉

ここから、甘木峠への上りはコンスタントにこいで登る。峠から玖珂町の八幡下交差点までの下りは一気に下る。国道437号線に入り、山陽道下付近で最後の電話を支所と妻美智子にする。“山宇温泉出発15時50分、支所到着16時05分”の予定。

疲れは全くない。今回の旅の最後の上り、祖生の峠2kmを懸命にこいで登り切る。

峠で一休みして、あとは日積の県道149号線との交差点まで急速度で下る。本当に気持ちよい。

日積から山宇温泉に向かい、15時30分に温泉に着く。ここで20分休憩。写真撮影。

15時50分、最後の再出発。気持ちは落ち着いている。山宇中学校前を通り、シルバー人材センター前を抜

けて、国道188号線に出る。山宇川を渡り、16時05分、山宇総合支所にゴールする。

ゴールでは、市役所の寺岡支所長さんをはじめ、教育委員会の職員さん、ランニング部の皆さん、自転車クラブCCCの数名、田中丈夫前廿日市市教育長さん夫妻、田中節子さん夫妻・正恵さん、等に拍手で迎えられる。

ランニング部の朝倉さんから花束、田中丈夫さん奥様から記念品を贈呈される。

“やった”という喜びが湧いてくる。たくさんの人と握手する。出迎えてくださった皆さんに一言お礼のあいさつをする。その後、みんなで写真撮影。中国新聞、防長新聞の取材を受ける。

17時20分、自宅に帰着する。疲れは全くない。妻は、ほっとした様子だった。

※ 今日のデータ 出発 8時30分 到着 16時05分

走行距離 93.16 km 走行時間 5時間02分44秒

平均時速 18.4 km/h 最高速度 ? km/h

積算距離 2893.88 km



山宇総合支所・出迎えの皆さんと